

市民等との協働事業

（令和6年度実施）



青梅市

市民安全部市民活動推進課

令和6年度実施 市民等との協働事業一覧

NO.	部	課	係	事業名	ページ 番号
1	市民安全部	市民安全課	ジェンダー 平等担当	ジェンダー平等情報紙発行事業	1
2		市民活動推進課	市民活動推進係	協働事業市民推進委員会	3
3				お〜ちゃんフェスタ	5
4				一般向けボランティア講座	7
5				「おそきだより」の発行	9
6			長淵市民センター	長淵市民センター運営協議会	11
7				長淵地区文化祭	13
8			大門市民センター	大門市民センター運営協議会	15
9				大門市民センター文化展	17
10			梅郷市民センター	梅郷市民センター運営協議会	19
11				梅郷地区総合文化祭実行委員会	21
12			沢井市民センター	沢井市民センター運営協議会会議	23
13				三田地区総合文化祭	25
14			小曾木市民センター	小曾木市民センター運営協議会	27
15				小曾木地区文化祭	29
16			成木市民センター	成木市民センター運営協議会	31
17				成木地区文化祭	33
18			東青梅市民センター	東青梅市民センター運営協議会	35
19				東青梅市民センターコミュニティ文化祭	37
20				第八支会ささえあいフェスティバル	39
21			新町市民センター	新町市民センター運営協議会	41
22				新町末広町地区市民文化祭	43
23			河辺市民センター	河辺市民センター運営協議会	45
24				河辺市民センター文化祭	47
25			今井市民センター	今井市民センター運営協議会	49
26				市民ウォーキング	51
27	環境部	環境政策課	管理係	おうめ環境フェスタ	53
28				おうめ環境ニュース	55
29				クールビズ運動	57
30				みんなで打ち水！	59
31				ウォームビズ運動	61
32				エコアクション	63
33				エコドライブ運動	65
34				みどりのカーテン事業	67
35				ワクワク！ドキドキ！！水辺の探検隊	69
36				多摩川まるごと遊び塾	71
37				がんばれ！あゆっ子2024	73
38				第16回炭焼き体験と水辺の交流会	75
39				お魚釣り	77
40				親子魚釣り教室2024「青梅とニジマス」	79
41				飼い主のいない猫のための「里親会」	81
42				動物愛護週間inおうめ	83
43				さくらねこ無料不妊手術事業	85
44				「生物多様性人材育成講座」地球の歴史を知ろう！	87
45				「生物多様性人材育成講座」バードウォッチング～青梅	89
46				流れのゆるやかな川・霞川で川遊び	91

令和6年度実施 市民等との協働事業一覧

NO.	部	課	係	事業名	ページ 番号
47	環境部	清掃リサイクル課	ごみ減量推進係	「資源物・ごみ収集カレンダー」の点訳事業	93
48		公園緑地課	わくわく公園係	大塚山いこいの森ボランティア	95
49				緑地管理ボランティア	97
50			みどり推進係	青梅の森杉保プロジェクト(青梅の森保全事業)	99
51	健康福祉部	高齢者支援課	いきいき高齢者係	青梅市見守り支援ネットワーク事業	101
52				高齢者向けスマートフォン教室・パソコン教室開催事業	103
53			包括支援係	認知症サポーター養成研修事業	105
54				青梅市高齢者虐待防止ネットワーク連絡会	107
55		障がい者福祉課	サービス給付係	初級および上級手話講習会	109
56			庶務係	青梅市障がい者交流バスハイク	111
57		健康課	健康推進係	第52回おうめ健康まつり	113
58	こども家庭部	子育て応援課	子育て推進係	青梅市ファミリー・サポート・センター事業	115
59				あつまれ！0.1.2.3ちびっこ☆ランド	117
60				外遊び型子育てひろば はらっぱ	119
61				子どもふれあいフェスタ2024	121
62				親子の絆づくりプログラム BP講座	123
63			児童・青少年係	青梅市親子ふれあい事業ポッチャ大会	125
64	地域経済部	シティプロモーション課	観光係	吹上しょうぶ公園ガイドボランティア事業	127
65				梅の公園ガイドボランティア事業	129
66		農林水産課	林務水産係	青梅市森林ボランティア育成講座	131
67	都市整備部	住宅課	住宅政策係	青梅市住宅なんでも相談会	133
68				青梅市定例住宅相談会	135
69	部 教 育 校	指導室	指導係	学校教育ボランティア	137
70	生涯学習部	社会教育課	生涯学習推進係	生涯学習フェスティバル～釜の淵新緑祭2024～	139
71				パパママカレッジ～家庭教育講演会～	141
72			図書館管理係	この指とまれ！朗読会	143
73				中央図書館整架ボランティア	145
74				おはなしボランティア	147
75				「本好きたちの読書会」～同じ本を読んでみんなで語り合いましょう～	149
76		文化課	吉川英治記念館担当	青梅市吉川英治記念館秋のライトアップと夜間開館	151
77				地域連携展示『五月人形展』	153
78				地域連携展示『ひな人形展』	155
79		スポーツ推進課	スポーツ推進係	第57回青梅マラソン大会	157
80	市民提案協働	子育て応援課	子育て推進係	おそきっこ里山プレイパーク&青空子ども食堂	159
81		指導室	指導係	進路学習会 ～不登校からの進路～	167
82		スポーツ推進課	スポーツ推進係	皆さんで「デフリンピックを盛り上げよう」イベント	173
83		子育て応援課	子育て推進係	親子の絆づくりプログラム“幼児とともに！”BP3	177

協働事業評価シート

事業名称	ジェンダー平等情報紙発行事業	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	青梅商工会議所、NPO法人青梅こども未来、和楽倶楽部、市民公募2人		
担当課・係	市民安全課 ジェンダー平等担当		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	青梅市におけるジェンダー平等にかかる意識啓発のため市民の意見を反映するとともに、市民の関心と理解を深める。
(3) 実施内容	年に2回、ジェンダー平等情報紙「よつばの手紙」を発行する。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	協働事業として市民の方に参加してもらうことで、ジェンダー平等に対する市民の理解を深めるため。
(3) 役割分担	【協働団体側】 記事の企画や取材など、情報紙の記事に関する事務。 【青梅市側】 委員会の事務局や記事の編集、市内関係先への配布。

3 P D C Aサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	5	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	4
	事業実施は円滑になされた	5	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	5	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

31号・32号ともに、テーマに合った市内の場所や取り組みを幅広く紹介することができたと思う。

【青梅市側】

団体から推薦された委員と公募委員のほか、庁内から部会員を選出し一緒に記事の作成を行うことで、委員会以外でも意見交換を行うことができた。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

市で発行する情報誌のため、校正は必要だと思いますが、それが編集委員の負担とならないような工夫が必要です。

【青梅市側】

記事として取り上げたい内容のすべてが「ジェンダー平等」に繋がるのか難しい場合がある。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	青梅市協働事業市民推進委員会	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	NP0法人、ボランティア団体、自治会連合会、青梅市社会福祉協議会、市民公募など		
担当課・係	市民活動推進課 市民活動推進係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	市の協働事業に対する意見や今後の協働のあり方等について市民の意見を求め、協働の推進を図る。
(3) 実施内容	市役所にて委員会を4回開催した（令和6年5月、7月、11月、令和7年1月）。 「時代の変化に合わせた自治会運営へ向けたガイドライン案について」「協働事業における事業目的および課題の共有について」の2項目について委員会としての意見を庁内会議へ提出。「時代の変化に合わせた自治会運営へ向けたガイドライン案について」は青梅市自治会連合会支会長会議においても説明・提案を行った。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	政策立案・事業企画（各種審議会・委員会で団体等から提案や意見を求める方法・団体等構成員が各種審議会に委員として参加すること。）
(2) 協働の理由・きっかけ	「青梅市における市民活動団体等との協働事業の推進に関する指針」にもとづき委員会を設置した。
(3) 役割分担	【協働団体側】 提案や意見の提示、意見交換、青梅市の協働事業推進についての評価 【青梅市側】 委員会の事務局、行政側として意見交換、今後の取り組みの検討

3 P D C A サイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	5	5
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	5	5
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	5	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	5	5
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	5	5
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	5	5
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

市民活動団体や自治会長、一般市民が生活や様々な市民活動をしているときに感じた生の声を行政と関係団体に届け、実際に実施できていることを明確化し、それぞれの立場で意見交換することはとても大切であり、未来の街づくりの根源となる有意義なことである。今年度は特に時代に合わせた自治会運営の変化が進まないことへの危機感から、積極的改善につなげる方策を検討するためのガイドラインを当委員会で作成し行政と自治会へ発信し、新たな方向性を打ち出した。

【青梅市側】

各種団体からの推薦委員と公募委員からなる委員会で、市内における協働について意見交換を行った。様々なフィールドで活躍する委員の皆さんから市民活動団体の現状や課題、考えを知ることができること、また市が抱える課題等について直接意見交換できる場として大変有意義である。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

市内全域で協働実施されている事業の状況を見守り改善につなげるためにも、この評価シートへの記載も改善しながらPDCAが回されている。青梅市の協働委員会の開始から10年を超え、また、コロナ禍を通じての状況変化もあり、行政と市民の協働意識向上と時代に合わせた協働のあり方を模索、検討したい。市民活動の課題解決に向けて喫緊の大きな課題から委員会でも取り上げ、市内全域での状況確認と改善を図りたい。また、委員の選出は広く意見を聞けるよう定員人数の確保をしたい。

【青梅市側】

「協働によるまちづくり」実現のため、市における協働の共通認識を持つことが重要と考える。課題としては、当委員会での協議内容を庁内へ浸透、各施策へ反映させていくこと。事務局として、的確な協議テーマの設定、会議の運営を調整していきたい。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	お～ちゃんフェスタ	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	青梅市社会福祉協議会（青梅ボランティア・市民活動センター）		
担当課・係	市民活動推進課 市民活動推進係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	ボランティア・市民活動団体、福祉団体、施設、企業、市民が一体感を共有できる機会をつくる。地域や世代を超えた交流や発表の場をつくり、より一層コミュニティの活性化を図る。
(3) 実施内容	ボランティア・市民活動団体、福祉団体・施設、企業等によるブース出展、活動紹介・展示、舞台発表、フリーマーケット。 令和6年9月15日（日）開催。来場者数3,200人。ブース出展49団体、室内出展8団体、舞台発表11団体、フリーマーケット22区画。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	以前は福祉団体を中心に「ふくし祭」として実施していたが、ボランティア・市民活動団体を含めた発表の場として実施していくこととなった。
(3) 役割分担	【協働団体側】 事業企画・運営、広報活動 【青梅市側】 事業実施に伴う会場・庁内調整、広報活動

3 P D C Aサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	5	5
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	事業実施は円滑になされた	5	5
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

市民活動推進課から、熱中症対策の部屋を設ける等のアイデアや、準備等の多大なご協力をいただきました。当会のみでの実施では、視点が偏ったり、形骸化していくことがあります。協力をしていただきながら、フェスタの実施ができました。

【青梅市側】

会場として市役所西側駐車場および庁舎の一部を提供することで、多くの出店数等を確保することができる。また、広報おうめ等を活用し周知を図るなど、市民へ広くPRができる。青梅ボランティア・市民活動センター登録団体を含め、地域の団体のPRの機会とすることができる。市内各種団体の活動状況などの把握、各種団体と知り合うきっかけとなる。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

前日準備や当日準備でバタバタしてしまうことがあります。双方動員できる人数が増えると良いと考えます。

【青梅市側】

市民活動団体の紹介、市民と市民活動団体、団体同士のつながりづくりの場としての充実を図っていく必要がある。「市民活動やボランティア活動のお祭り」の面を感じられる内容を盛り込んでいきたい。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	一般向けボランティア講座	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	青梅市社会福祉協議会（青梅ボランティア・市民活動センター）		
担当課・係	市民活動推進課 市民活動推進係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	新たな市民活動・協働の担い手となり得るボランティア・社会貢献活動に興味を持っている市民に活動を始めのきっかけをつくること、そういった市民に青梅ボランティア・市民活動センター（通称：ボラセン）とその実施する事業を知ってもらうこと。
(3) 実施内容	講座名「ふみだそう！ボランティア活動の第一歩」 講師：青梅ボランティア・市民活動センター小林理人氏、（特非）和楽倶楽部理事長相馬健一氏 対象：ボランティア活動に興味がある人（市民に限定せず） 参加人数：19人

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	ボランティアに興味がある人向けの入門講座を開催したいと考え、市内のボランティア活動の要であるボラセンへ協働を持ちかけた。
(3) 役割分担	【協働団体側】 広報、講師派遣、講座参加者のアフターフォロー 【青梅市側】 広報、参加者受付、会場手配

3 P D C A サイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	5	5
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	5	5
	協働の役割分担は適切だった	5	5
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	事業実施は円滑になされた	5	5
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	5	5
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	5	5
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

今回、ボランティアについての概要とボランティア当事者の話だけでなく、各ボランティア団体のブースを設けて、相談会を行っていただきました。「ボランティアとは何か」を知り、「ボランティア体験」を聞き、実際にボランティアについて相談できるという、まさにボランティア活動の第一歩をスムーズに踏み出せる機会だったと考えます。

【青梅市側】

常日頃からボランティア活動者・団体を支援しているボラセンと協働することにより、登録団体へのアンケート実施を経てボランティア団体のブースを設けることができた。また、講座参加者の一部をボランティア活動への参加につなげることができた。講座参加者へボラセンの存在を周知することができた。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

ボランティア団体ブースの数や種類をさらに増やせると良いと感じました。

【青梅市側】

目的は一貫して「ボランティア活動に興味のある市民等をボランティア活動につなげること」であり講座参加者へのアプローチ方法は変えているが、参加者数が思うように増えない。講座参加者のアンケート結果から講座そのものの満足度は高いことがわかることから、PR方法やタイトルなどブラッシュアップしていきたい。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	「おそきだより」の発行	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	おそきの学校と地域を考える会		
担当課・係	市民活動推進課 市民活動推進係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	小曾木地域のイベントや課題の情報を共有し地域の一体性を高め、地域振興対策を図る。
(3) 実施内容	情報紙の企画立案、取材調査、編集、発行。企画、取材活動を通じた地域課題、動向の把握。 令和6年4月に第42号、令和7年2月に第43号を発行。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業協力（市と団体等との間で協定により一定期間、継続的に事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	平成24年度市民提案協働事業で採択された。
(3) 役割分担	【協働団体側】 企画、情報収集、編集、発行、配布 【青梅市側】 経費の負担、配布

3 P D C Aサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	3
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	5	4
	協働の役割分担は適切だった	5	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	5	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	事業実施は円滑になされた	4	3
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	3
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

市民側が主体となり地域情報を取得し地域発信を行うことで、地域状況の変化を市民目線で確認しその情報が地域と行政に発信され、地域一体感の醸成や地域活動の推進につながっている。記事の収集、編集作業などに多数の人が関わり、地域の仲間の主体性向上や自己肯定感が向上している。このような動きがあることが、協働により行政担当者や他地域へも意識を高める効果として働いている。

【青梅市側】

行政だけでは収集困難な、地域の情報や課題を掲載することができ、市民目線で地域の状況を伝えることができた。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

記事の収集、編集作業などの日程調整をもっと綿密に行い、編集作業にさらに多数の人が関わり、地域の仲間の主体性向上と発行予定日通りの発行につなげたい。今後も地域の良さを含めた情報発信を行いさせるとともに、地域課題を共有し改善につなげて行きたい。

【青梅市側】

創刊から10年以上という実績があり、他地域への波及効果を期待する。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	長淵市民センター運営協議会	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	市長が委嘱する委員（第二支会、二小、青少対第二支会、スポーツ推進委員、青少年委員、文化団体会員、調布ことぶき大学）、公募委員		
担当課・係	市民活動推進課 長淵市民センター		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	長淵市民センターの効果的な活用を検討する
(3) 実施内容	市民センターの利用状況、住民票等交付状況、図書館利用状況、予算・事業等について

2 協働の内容

(1) 協働の形態	政策立案・事業企画（各種審議会・委員会で団体等から提案や意見を求める方法・団体等構成員が各種審議会に委員として参加すること。）
(2) 協働の理由・きっかけ	青梅市市民センター運営協議会設置要綱
(3) 役割分担	【協働団体側】 センター運営全般について協議する 【青梅市側】 センター運営全般について協議する

3 P D C Aサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	3
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

市民センターの現状の業務内容について知ることができるとともに、意見交換を通して市民センターの運営等に対し意見、助言等を素直に伝えることができる。

【青梅市側】

市民センターの現状の業務内容について知ることができるとともに、センター利用者や地域団体等との意見交換を通して市民センターの運営等に対し意見、助言等を素直に伝えることができる。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

市民センターからの情報や委員同士の意見交換を通して、市民センターの効果的な活用 についてについて考えていく機会にしたい。

【青梅市側】

市民センターからの情報や委員同士の意見交換を通して、市民センターの効果的な活用についてについて考えていく機会にしたい。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	長淵地区文化祭	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	長淵地区文化祭実行委員会		
担当課・係	市民活動推進課 長淵市民センター		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	長淵市民センターを利用している自主グループおよび長淵地区において活動している個人や団体の発表の場、長淵地域の各種団体の出展により、地域コミュニティを推進し地域の活性化を図る。
(3) 実施内容	長淵市民センター利用団体および地域団体・個人の発表の場等を設けるとともに、住民の親睦を図る機会とする。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	市民センター利用団体および地域市民の発表の場の創設
(3) 役割分担	【協働団体側】 実行委員会での打合せ。文化祭会場等の設営および片付け。 【青梅市側】 実行委員会関係業務、文化祭日程の周知、展示等機材の提供。

3 P D C A サイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

利用団体および地域団体・個人の成果発表、団体相互の親睦、地域住民の交流の場として効果があり、市民センターが身近に感じられる大きな要素と考える。

【青梅市側】

利用団体および地域団体・個人の成果発表、団体相互の親睦、地域住民の交流の場として効果があり、市民センターが身近に感じられる大きな要素と考える。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

発表の場所等のより良い機会づくり、参加団体および入場者数の増加方法の検討。

【青梅市側】

発表の場所等のより良い機会づくり、参加団体および入場者数の増加方法の検討。
駒木町、友田町、千ヶ瀬町の方々にも広く参加していただくため、「長淵地区文化祭」の名称変更の検討。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	大門市民センター運営協議会	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	第三支会、大門地区子供会育成会、市民センター利用団体などからの推薦者、第三小学校長、かすみ台第一保育園長、公募市民		
担当課・係	市民活動推進課 大門市民センター		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	市民福祉の増進と地域社会の振興を図り市民自らがコミュニティの醸成のため積極的に活用する市民センターを目指し 各種団体から選出された委員の方々と意見交換を行い 利用しやすい市民センターを目指す。
(3) 実施内容	大門市民センター2階会議室において 令和6年7月23日および令和7年2月20日の2回開催した。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	政策立案・事業企画（各種審議会・委員会で団体等から提案や意見を求める方法・団体等構成員が各種審議会に委員として参加すること。）
(2) 協働の理由・きっかけ	「青梅市市民センター運営協議会設置要綱」にもとづき協議会を設置し 市民等に意見をいただいている。
(3) 役割分担	【協働団体側】 市民センターが担う業務について報告を受け 意見の申出や提案を行う。 老朽化が進む施設の改修・修繕などについて様々な提案を行い 令和6年度の予算要求に反映させることが出来た。 【青梅市側】 協議会の事務局 市民センターが担う業務について 住民票等証明書発行業務や施設貸出状況 図書館利用状況 さらに2年目を迎えた不登校児童生徒の学習の場『ふれあい学級分室』 熱中症対策の場として『涼み処』の開設 さらに老朽化が進む施設の状況などを報告した。

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	3	4
	協働の役割分担は適切だった	3	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	3	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	3	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

大門市民センターにおける施設利用状況や図書の貸し出し状況を把握するとともに 令和6年度に実施する文化展や生涯学習事業および予算概要なども把握出来た。
施設の老朽化に対して修繕費などが十分に配分されていない実態が分かった。

【青梅市側】

多様な団体からの推薦を受けた委員と公募委員からなる協議会で 市民センターの業務や施設管理 行事などについて意見交換を行い 委員の持つ考え方を知る良い機会となった。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

市民センターは有事の際 地域の拠点となる施設と考える。
有事の際 施設の機能が十分に果たせるような修繕等予算確保に努めてもらいたい。

【青梅市側】

市民センターの状況を細かく報告することが より多くの意見を聞くことに繋がるものと考えてるので 資料の作成方法などを検討したい。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	大門市民センター文化展	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	大門市民センター文化展実行委員会		
担当課・係	市民活動推進課 大門市民センター		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	大門市民センター文化展を開催し 大門市民センターで活動する団体（絵画、陶芸、絵葉書など）や近隣小中学校、地域に居住する市民の作品を展示し発表の場とする。
(3) 実施内容	令和6年9月18日に大門市民センター2階会議室にて実行委員会を開催し 11月15日に会場展示準備を行い 11月16日および17日に文化展を開催した。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	大門市民センターで活動する団体（絵画、陶芸、絵葉書など）の方々が作成した作品を展示する機会として市民センターが企画し 活動する団体等に呼びかけ地域の皆さんへの発表の場とするとともに 会員募集に繋げたいという考えから
(3) 役割分担	【協働団体側】 実行委員会での意見交換を通し会場・展示準備や作品出展・来場者受付 後片付けなどの対応を行った。そして来場者への作品説明を通し会員の募集などへの働き掛けも行った。 【青梅市側】 文化祭実行委員会事務局、会場準備、センターだよりでの文化展の開催通知や近隣小中学校および地域住民への作品募集 ならびに来場案内

3 P D C A サイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	3
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	3
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	2
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

作成した作品を披露する貴重な機会となり 来場者の方々の声を聴くことで次の作品への創作意欲を得る場として活用した。

【青梅市側】

施設利用団体の活動内容を確認でき 利用者との交流を図ることが出来た。来場者からも『このような機会を得て 皆さんの日頃の努力を知る機会となった』などの感想も聞くことが出来た。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

活動する団体は地域社会と同様に高齢化が進んでいる。もっと多様な世代の方々に ご覧いただき会員の募集に繋げる場として活用させていただきたい。

【青梅市側】

より多くの地域の方々に来ていただけるよう魅力ある文化展にして行きたい。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	梅郷市民センター運営協議会	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	梅郷市民センター運営協議会		
担当課・係	市民活動推進課 梅郷市民センター		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	梅郷市民センターの運営等についてお知らせするとともにセンター利用者の代表から意見要望をいただく。
(3) 実施内容	梅郷市民センターにて運営協議会を年間2回開催し、委員からいただいた意見等は可能な限りではあるがセンターの運営に反映させている。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	「青梅市市民センター運営協議会設置要綱」にもとづき協議会を設置。
(3) 役割分担	【協働団体側】 センターの運営について把握し利用者の代表として意見や希望を述べる。 【青梅市側】 協議会の事務局としてセンターの運営についてまとめ委員に報告する。報告の結果、委員から出た意見等について検討し対応する。

3 P D C Aサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	3	3
	協働の役割分担は適切だった	4	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	3	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

市民センターの運営状況や市政を間近で知ることができ、意見をセンターに伝えることができた。

【青梅市側】

市民センターの運営等について把握していただき、地域住民やセンター利用者からの意見を得る機会となった。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

意見を出してもセンター独自の事業は限られる。予算的にも限られて実現に時間がかかりすぐには反映されない。
報告等がメインになって形式化しているが地域住民やセンター利用者の意見を伝えるようにしたい。

【青梅市側】

報告等がメインになってきており議題が形式化しているが、地域住民やセンター利用者からの意見を得る貴重な場となっている。
今後も意見や要望を伺い市民センターの運営に反映させたい。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	梅郷地区総合文化祭実行委員会	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	梅郷地区総合文化祭実行委員会		
担当課・係	市民活動推進課 梅郷市民センター		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	地域の伝統や特性を生かし、生涯にわたる地域住民の多様な学習機会の成果を展示することで、地域の交流を促進し地域社会における主体的活動の活性化を図る。
(3) 実施内容	梅郷市民センター利用団体や地域団体等の作品展示や交流を行った。 また、農協の協力により農産物の展示即売や自治会長による模擬店の出店、苗木の配布を行った。また、キッチンカーによる食べ物の提供を行った。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	梅郷市民センター利用団体から発表の場を提供して欲しいとの提案があった。
(3) 役割分担	【協働団体側】 ・文化祭実行委員会に委員として参加して運営方法等を協議する。 ・文化祭会場の設営、運営および片付けをする。 ・展示作品の収集展示および撤収をする。 【青梅市側】 ・文化祭実行委員会の事務局として関係業務を遂行する。 ・文化祭日程の周知案内等集客に努める。 ・展示に必要な物品等の準備

3 P D C A サイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	5	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

- ・ 日頃の活動成果発表の場ができてやる気のアップにつながった。
- ・ 他の団体の方と話ができて刺激をもらったり親睦の場となった。
- ・ 地域住民と久しぶりに会うことができ交流の場として効果があった。

【青梅市側】

利用団体の活動発表の場を作ることで活動に活気が出る。また、協働団体側の希望を伺うなど意見交換することができ効果がある。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

- ・ 来年はより良い作品を展示できるように今後とも活動をする。
- ・ 活動発表の場として会場づくりを工夫する。

【青梅市側】

混雑や換気に注意をしつつ、参加団体および入場者数の増加を図り活気があり楽しめる活動としていく。

体育館の入口で履物を履き替える作業は高齢者は転倒の危険性があるため、履き替えずに外履きのまま参加できるように工夫する。

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート

事業名称	沢井市民センター運営協議会会議	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	沢井市民センター運営協議会		
担当課・係	市民活動推進課 沢井市民センター		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	市民から率直な意見や助言を受けて相互に議論し、より良い市民センターの運営を行うことを目的とする。
(3) 実施内容	9月と3月、年2回会議を行い、センターの運営状況を報告している。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	政策立案・事業企画（各種審議会・委員会で団体等から提案や意見を求める方法・団体等構成員が各種審議会に委員として参加すること。）
(2) 協働の理由・きっかけ	青梅市市民センター運営協議会設置要綱にもとづき、沢井市民センター運営協議会を設置した。
(3) 役割分担	【協働団体側】 沢井市民センターの運営について、意見交換および助言をいただく。 【青梅市側】 沢井市民センター運営協議会の事務局であり、委員からの意見、助言をセンターの運営に反映する。

3 P D C A サイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	3	3
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	3
	協働の役割分担は適切だった	4	3
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	3
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	3
	事業実施は円滑になされた	4	3
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	3
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	3	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	3
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	3
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果
【協働団体側】 協議回数は少ないものの、沢井市民センターを運営する行政側の考えを理解するとともに、意見、助言等を率直に伝えることができた。
【青梅市側】 市民からの率直な意見、助言等を受けて相互に議論するとともに、より良い沢井市民センターの運営に向けて行政と市民相互の認識を一致することができた。
(2) 今後の課題および改善事項など
【協働団体側】 市民としてもっと広い視点で議論を交わす必要がある。また、サービスを受ける側として、沢井市民センターの運営には、市民がもっと積極的にかかわっていくことが重要である。
【青梅市側】 直接市民からの意見、助言等を受け議論する機会を確保することは、行政として重要であり、今後も積極的に市民の意見、助言等をお聞きし、議論する中で、より良い沢井市民センターの運営に繋げていく必要がある。

5 事業の様子（写真等）

Empty space for photos and descriptions

協働事業評価シート

事業名称	三田地区総合文化祭	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	青梅市自治会連合会第5支会、清涼会（高齢者団体）、西東京農業協同組合二俣尾支店、沢井市民センター利用団体		
担当課・係	市民活動推進課 沢井市民センター		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	地域住民等の文化意識の向上と地域の活性化を図る。また、出品、出展、出演者等との開催協力などを通じて、住民相互のふれあいや、趣味、生きがい等の発見機会を提供する。
(3) 実施内容	来場者数523人。出品、出展、演技披露等を通じて住民相互の交流が図られた。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	政策立案・事業企画（各種審議会・委員会で団体等から提案や意見を求める方法・団体等構成員が各種審議会に委員として参加すること。）
(2) 協働の理由・きっかけ	沢井市民センターを利用している各種団体等の作品・演技のほか、地域で栽培した農作物等の観賞および即売会等を通じて、多くの住民等がこの事業に参加するとともに、各種団体等の交流の場を提供し、地域の活性化に繋げる。
(3) 役割分担	【協働団体側】 主催者会議・事前説明会出席、会場準備、当日の運営協力、展示または出演、会場片付け。 【青梅市側】 主催者会議・事前説明会開催、会場・必要物品の確保、開催通知・広報、会場準備、進行管理、会場片付け。

3 P D C A サイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

自主グループや地域住民の発表の場が広がることで活動の励みとなり、連帯意識も高まる。市民センター利用者間の交流に発展するきっかけとなる。

【青梅市側】

この事業を共催することにより、集客効果が大きくなるとともに、この事業を通して普段交流の少ないセンター利用者間の横の繋がりが期待できるほか、協働作業は、日ごろの市民との距離感を縮めることができる。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

少子高齢化が進む中、若い世代の参加および来場者を増やす工夫が必要である。

【青梅市側】

少子高齢化が進む中、市民センター利用団体も高齢化が進んでおり、日ごろから子育て中の親子など、若い世代のセンター利用を促進する中で、利用団体の増加を促す必要がある。また、若い世代が興味を示す催しを取り入れる等、来場者を増やす工夫が必要である。

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート

事業名称	小曾木市民センター運営協議会	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	自治会連合会第6支会、民生児童委員、ボランティア団体、公募委員		
担当課・係	市民活動推進課小曾木市民センター 小曾木市民センター		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	市民センターの運営事業内容等について意見を聴取した。
(3) 実施内容	令和6年8月7日、令和7年2月13日の2回開催して協議し、議事録を作成して市民活動推進課に提出した。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	政策立案・事業企画（各種審議会・委員会で団体等から提案や意見を求める方法・団体等構成員が各種審議会に委員として参加すること。）
(2) 協働の理由・きっかけ	「青梅市における市民活動団体等との協働事業に関する指針」にもとづき協議会を設置し、市民等に意見を求めている。
(3) 役割分担	【協働団体側】 提案や意見の提示、意見交換、青梅市の協働事業推進についての評価。 【青梅市側】 協議会の事務局、行政側としての意見交換、今後の取り組みの検討。

3 P D C A サイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果	
【協働団体側】	市民センターが老朽化しており、こまめにメンテナンスをしていただいているが、改善が難しい現状がある。
【青梅市側】	多様な団体からの推薦委員と公募委員からなる協議会で、市の協働について意見交換を行った。市民活動団体の現状や課題、考えを知ることができ、市の課題も共有でき、意見交換の場として有意義であった。
(2) 今後の課題および改善事項など	
【協働団体側】	市民センター体育館の冷房化について、できるだけ速やかに改修していただきたい。
【青梅市側】	現状、市民センターで実施する事業が少ない現状では、単に意見聴取の場と化してしまい、運営や政策に生かせることが少ないことが大きな課題である。

5 事業の様子（写真等）

Empty space for photos and descriptions

協働事業評価シート

事業名称	小曾木地区文化祭	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	利用団体、小・中学校、保育園、特別養護老人ホーム、青少年健全育成小曾木地区委員会、おそきの学校と地域を考える会、高齢者お助け隊、農業者、小曾木っ子の会		
担当課・係	市民活動推進課小曾木市民センター 小曾木市民センター		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	市民センター利用団体、地域の活動団体等が一同に介して実行委員会を立ち上げ、作品展示や、野産物共進会の開催、小曾木っ子の会が主催するイベントを同時開催して、地域の賑わいの創出に清した。
(3) 実施内容	小曾木市民センターで令和6年11月9日、10日の2日間の開催し、延べ453人の参加を得た。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	利用団体等の発表・展示の場を確保するとともに、来場者を広く呼び掛けることで、地域の活性化の一助とする。
(3) 役割分担	【協働団体側】 利用団体側については発表・展示の場の確保、地域の賑わいの創出。 【青梅市側】 実行委員会の事務局、市民センター利用者の増加

3 P D C A サイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

野産物共進会や、小曾木っ子まつりとの同日開催により、広く住民が集える場が確保されたとある。

【青梅市側】

多くの利用団体に利用していただき、発表の場が確保されたことで、利用者の増加に寄与。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

新たな利用希望の団体として、デイサービスの利用者や、女性防火防災の会との連携も視野に、継続を図りたい。

【青梅市側】

利用団体の高齢化、令和6年度をもって小曾木老壮大学の閉校等による参加団体の減少が懸念される。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	成木市民センター運営協議会	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	自治会連合会第七支会、成木地区防災対策委員会、スポーツ推進委員、青少年委員、施設利用団体、公募市民		
担当課・係	市民活動推進課 成木市民センター		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	「市民福祉の増進と地域社会の振興を図るとともに、市民自らがコミュニティの醸成のため積極的に活動を展開する」という目的のためにある市民センターの効果的な活用を検討するため。
(3) 実施内容	成木市民センターにて運営協議会を令和6年8月7日（水）および令和7年3月7日（金）の2回開催。協議会の会議録は庁内へ提出。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	政策立案・事業企画（各種審議会・委員会で団体等から提案や意見を求める方法・団体等構成員が各種審議会に委員として参加すること。）
(2) 協働の理由・きっかけ	「青梅市市民センター運営協議会設置要綱」にもとづき設置。
(3) 役割分担	【協働団体側】 成木市民センターを効果的な活用を検討するための意見交換および評価。 【青梅市側】 成木市民センターを効果的な活用を検討していただくため、成木市民センター業務実績および予定の提示。

3 P D C Aサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

独自の事業や通常業務について、説明および課題を詳細に聞くことができ、自由な意見や助言を言える状況にある。
利用者増や地域に貢献しようと努力する事務局の努力が感じられる。

【青梅市側】

地域団体や公募市民からの意見を直接いただくことで、効果的な運営につなげることができている。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

課題は感じられない。

【青梅市側】

課題は感じられない。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	成木地区文化祭	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	管内の自治会、成木保育園、成木小学校、成木小学校PTA、第七中学校、第七中学校PTA、農業者振興会、農産物共進会、市民センター利用団体、成木地域の文化活動実施者、成木地域の福祉施設		
担当課・係	市民活動推進課 成木市民センター		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	地域市民の交流やふれあいをより一層深め、その親睦を図る。
(3) 実施内容	文化祭当日の令和6年11月9日（土）・11月10日（日）の2日間に加え、成木市民センターにて実行委員会を令和6年8月1日（木）、令和6年10月10日（木）、令和6年11月21日（木）の3回開催。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	開始時期、開始のきっかけは不明。
(3) 役割分担	【協働団体側】 実行委員会での協議、開催当日までの準備、当日の運営、片付。 【青梅市側】 実行委員会の開催、行政側としての協議参加、開催当日までの準備、当日の運営、片付。

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

各団体との年に一度の協働行事として定着している。
企画の段階から誰でも自由な意見を交わすことができている。
団体間の関係が良好になり、知人が増え、地域のコミュニティが育まれている。

【青梅市側】

地域住民や利用団体との良好な関係を築くことができる。また、住民間の交流も深まり、災害等の有事には、助け合い（共助）に大きな効果が期待でき、市など（公助）の負担軽減につながるものと考えられる。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

課題は感じられない。

【青梅市側】

課題は感じられない。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	東青梅市民センター運営協議会	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	青梅市自治会連合会第八支会、青少年健全育成第八支会地区委員会、青梅市スポーツ推進委員、東青梅老壮大学、青梅市青少年委員、体育系サークル東青梅健康体操クラブ、NP0法人青梅こども未来、青梅女性防火防災の会第8支部、市民公募		
担当課・係	市民活動推進課 東青梅市民センター		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	東青梅市民センターの効果的な活用を検討するため、施設のあり方等について意見を求める。
(3) 実施内容	東青梅市民センターにて令和6年8月1日および令和7年2月5日の2回開催。意見を集約。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	政策立案・事業企画（各種審議会・委員会で団体等から提案や意見を求める方法・団体等構成員が各種審議会に委員として参加すること。）
(2) 協働の理由・きっかけ	「青梅市市民センター運営協議会設置要綱」にもとづき協議会を設置し、地域の外郭団体の代表者に意見を求めている。
(3) 役割分担	【協働団体側】 提案や意見の提示、意見交換、東青梅市民センターへの評価。 【青梅市側】 協議会の事務局、行政側としての意見交換、今後の取り組みの検討。

3 P D C Aサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

行政に対し、利用者の視点から意見や要望を伝えることができた。

【青梅市側】

市民の代表から率直な意見を聞くことにより、市民センターの運営に反映することができた。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

利用者の声を反映したものとなるよう運営に関わっていくことが必要と思われる。

【青梅市側】

市民の意見等を伺い、議論する中で、より良い市民センターの運営につなげていく必要がある。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	東青梅市民センターコミュニティ文化祭	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	自治会連合会第八支会、市民公募		
担当課・係	市民活動推進課 東青梅市民センター		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	当センターを利用している文化活動団体に発表の場を設ける。
(3) 実施内容	当センター体育館内で令和6年10月5日および6日の2日間で作品展示・舞台発表の場を設けた。※6日は自治会のささえあいフェスティバルと同時開催。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	例年行っている事業で来場者もあり、団体の活躍の場を設けるため。
(3) 役割分担	【協働団体側】 説明会・反省会での意見交換、当日自ブースでの作品見守り、来場者へのご案内。 【青梅市側】 実行委員会事務局、当日運営、反省会・アンケートを通して改善を図る。

3 P D C A サイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	事業実施は円滑になされた	5	5
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	5	5
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	5	5
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	5	5
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

【市民側】活動発表の機会を得て、来場者に活動の成果を見てもらうことができた。

地元自治会がパネルの配置や片付けの役割を分担した。これにより、高齢化している団体の会員の負担が、軽減された。

【青梅市側】

【行政側】施設利用団体の組織の現状把握と活動内容を把握することができ、なおかつ、団体との交流も図ることができた。また、地元自治会の会員の文化活動の状況を見ることができた。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

【市民側】団体の会員の高齢化と会員数減少があり、活動の継続が危ぶまれるような団体も増えているため、活動発表の場兼会員募集の場として利用する。

【青梅市側】

【行政側】同時開催しているささえあいフェスティバルの発表について、雨天により屋内で発表を行った事で会場の混雑・椅子の不足等が起こった。来場者が不便を感じない工夫をしたい。また、会場が暑いとご意見あったため涼める休憩場所を設けたい。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	第八支会ささえあいフェスティバル	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	自治会連合会第八支会		
担当課・係	市民活動推進課 東青梅市民センター		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	地域の活性化およびこれからの自治会活動や加入促進に生かすことができる。また、歴史と文化に関する授業を通じて地域に愛着を持つ子どもたちが増え、次世代につなげることができると同時に、世代間交流と地域社会における子どもたちの新たな先生（自治会長）との関係づくりができるよう、学校を含め地域の各種団体と連携を深め、地域住民が安全で安心して暮らせるまちづくりを目指すため
(3) 実施内容	東青梅市民センターにて令和6年10月5日（土）、6日（日）に実施。 展示、演技披露、模擬店等を実施。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	学校を含め地域の各種団体と連携を深め、地域住民が安全で安心して暮らせるまちづくりを目指すため
(3) 役割分担	【協働団体側】 イベント実施 【青梅市側】 イベント実施補助

3 P D C Aサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	5	5
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	5	5
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	5	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	5	5
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	5	5
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

第八支会では、学校を含め地域の各種団体と連携を深め、地域住民が安全で安心して暮らせるまちづくりを目指して日々活動しており、各自治会や地域の団体の活動内容などを多くの来場者へ周知することができた。

【青梅市側】

東青梅市民センターコミュニティ文化祭と同時開催をすることにより、多くの観覧者に来場していただき、様々な活動内容を知っていただけた。また、協働相手と共に活動することにより会場設営や片付けなどの労力を効率的に運営することができた。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

この事業を継続することにより、地域の活性化および自治会への加入促進につなげていきたい。

【青梅市側】

参加事業内容を精査し部会等で改善点を検討することにより、地域住民に対し、より魅力ある事業になるよう努めていきたい。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	新町市民センター運営協議会	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	第九支会、青少健新町地区委員会、青梅市スポーツ推進委員、小学校PTA、中学校PTA、利用団体代表、市民公募		
担当課・係	市民活動推進課 新町市民センター		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	新町市民センターの適正かつ効果的な活用の検討
(3) 実施内容	新町市民センターにて、令和6年8月1日（木）および令和7年3月6日（木）の2回開催 協議会の意見をセンター運営に反映する。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	政策立案・事業企画（各種審議会・委員会で団体等から提案や意見を求める方法・団体等構成員が各種審議会に委員として参加すること。）
(2) 協働の理由・きっかけ	市民センター運営協議会設置要綱
(3) 役割分担	【協働団体側】 ①市民センター運営について検討・協議 ②文化祭の企画運営 【青梅市側】 ①センター事業の実施状況、利用人数などを報告 ②運営協議会での協議検討結果をセンター運営へ反映

3 P D C A サイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

地域住民および施設利用者の声を市民センターへ直接伝え、市民センター運営に活かすことができた。

【青梅市側】

協議会に市民が参加することで、市民の自治への関与が促進され、地域運営に対する市民の意識が高まる。これがさらなる市民参加を生み出し、自治体運営の活性化に繋がる。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

若者の地域離れや高齢化が課題となっている地域も多く、コミュニティを活性化させる取り組みが求められる。市民参加型の活動を増やすなどして、住民の関心を引き、参加を促すことが重要と考える。

【青梅市側】

多くの市民を協議会やセンター活動に参加させることは、継続的な課題。特に若い世代や働き盛り層の参加が少ない場合、どのように参加を促進するかが課題となる。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	新町末広町地区市民文化祭	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	新町末広町地区市民文化祭実行委員会		
担当課・係	市民活動推進課 新町市民センター		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	文化祭は、センター利用団体などが行う文化活動の発表の場であるとともに、地域住民が交流する貴重なふれあいの場でもある。このイベントを通じて、センターに来館し活動することで、地域住民の交流を促進し、地域コミュニティの活性化を図ることを目指している。
(3) 実施内容	令和6年11月9日・10日実施 参加団体18団体、個人2人 来場者2日間合計 755人

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	市民センターで活動中の団体へ地域発表の場を提供するため。
(3) 役割分担	【協働団体側】 実行委員会を組織し、主体的に文化祭の企画・運営を行う 【青梅市側】 実行委員会事務局として運営にかかわるとともに、文化祭の周知及び機材等の準備をする。

3 P D C A サイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

地域住民および施設利用者の声を市民センターへ直接伝え、市民センター運営に活かすことができた。

【青梅市側】

文化祭を通じて市民と行政が協働で活動することで、地域コミュニティの連携が強化されます。これにより、市民同士、また市民と行政の間での信頼関係が築かれ、日常的な地域活動への関与も促進されます。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

若者の地域離れや高齢化が課題となっている地域も多く、コミュニティを活性化させる取り組みが求められる。市民参加型の活動を増やすなどして、住民の関心を引き、参加を促すことが重要と考える。

【青梅市側】

一部マンネリ化が指摘されている。また、コロナの影響を引きづってか来場者が減っている。人を集まられる企画・催し物をやってみたり、新規団体（例えば、お茶の団体によるお茶とお茶菓子提供など）の開拓を行うとともに、新たな視点による企画・運営が必要。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	河辺市民センター運営協議会	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	河辺市民センター運営協議会		
担当課・係	市民活動推進課 河辺市民センター		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	運営協議会を設置し委員の意見を求め、市民センターの効果的な活用を検討するため。
(3) 実施内容	河辺市民センターにて運営協議会を令和6年6月および令和7年2月の2回開催し、施設利用状況や設備改修予定などを報告し委員の意見を求めた。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	政策立案・事業企画（各種審議会・委員会で団体等から提案や意見を求める方法・団体等構成員が各種審議会に委員として参加すること。）
(2) 協働の理由・きっかけ	青梅市市民センター運営協議会設置要綱にもとづく
(3) 役割分担	【協働団体側】 市民センターの効率的な活用方法の提案、協力 【青梅市側】 会場準備、日程調整、資料作成 協議会意見等にもとづき市民センターの運営に活用する。

3 P D C A サイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	3	3
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	3	3
	協働の役割分担は適切だった	3	3
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	事業実施は円滑になされた	3	3
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	2	3
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	2	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	2	3
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	3
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果
【協働団体側】 協働のメリットである対等な立場で話し合いをすることができ、緊張することなく積極的に意見を出すことができた。
【青梅市側】 市民センターと地域住民、市民センター利用者との交流・意見の場となり、それぞれが対等な立場で議論することにより、市民センターの効率的な運営に役立った。
(2) 今後の課題および改善事項など
【協働団体側】 協議会は年2回実施、いずれも土曜日の午前中に実施しているため欠席委員も多く、すべての委員からの意見が聞けないこと。また職員側も通常業務に携わる職員は出席できてない。 様々な意見を出したが、施設の改善など予算を伴う案件などは実現されず、折角の運営協議会を組織していても意見集約に留まることが多い。
【青梅市側】 委員よりいただいた意見が市民センターの効率的な運営に役立つ半面、施設の改修など予算を伴う案件については、反映されないことが課題である。

5 事業の様子（写真等）

Empty space for photos and descriptions

協働事業評価シート

事業名称	河辺市民センター文化祭	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	河辺市民センター文化祭実行委員会		
担当課・係	市民活動推進課 河辺市民センター		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	市民センターの利用団体の活動状況を広く市民に紹介し、活動への参加を促すとともに、地域住民の作品展示や舞台発表を行うことにより、河辺地域のコミュニティの醸成を図る。
(3) 実施内容	市民センターの利用団体および地域住民の作品展示、演奏、演技等の紹介および第10支会、青少年対策第10支会地区委員会、食育クラブ等の模擬店出店

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	河辺市民センターで活動中のサークルの発表の場として文化祭を協働で実施してはどうかと市側から提案
(3) 役割分担	【協働団体側】 作品出展、演技披露、会場準備、片付け、来場者受付、駐車場管理 【青梅市側】 参加団体呼びかけ、日程調整、会場確保、展示用資材や音響設備等の提供、プログラム作成、許認可申請手続、広報

3 P D C A サイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	3	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	3	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	3	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	事業実施は円滑になされた	3	3
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	3	3
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	3	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	3
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果
【協働団体側】 市民センターを利用する団体や自治会などで組織された文化祭実行委員会形式を取り入れてることにより、文化祭開催に向けて対等に意見を出し合うことができた。
【青梅市側】 場を提供することにより、利用者とのコミュニケーションが図られた。市民センターの存在を参加団体や出品者を通じ、広く市民に周知することができた。
(2) 今後の課題および改善事項など
【協働団体側】 実行委員会のメンバーが高齢化などにより、力仕事を伴う準備、片付けなどが負担であると感じた。
【青梅市側】 参加団体、地域住民参加がやや減少傾向であること。参加団体のメンバーの高齢化などにもよるが、開催日数などの変更など参加団体への負担軽減を図っていく必要を感じた。

5 事業の様子（写真等）

Empty space for photos and descriptions

協働事業評価シート

事業名称	今井市民センター運営協議会	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	今井市民センター		
担当課・係	市民活動推進課 今井市民センター		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	今井市民センターの運営を適正かつ効果的に行うことを協議するため。
(3) 実施内容	今井市民センターにて委員会を令和6年7月3日および令和7年2月5日の2回開催

2 協働の内容

(1) 協働の形態	政策立案・事業企画（各種審議会・委員会で団体等から提案や意見を求める方法・団体等構成員が各種審議会に委員として参加すること。）
(2) 協働の理由・きっかけ	今井市民センター運営協議会設置要綱による。
(3) 役割分担	【協働団体側】 市民センター運営のあり方を協議・検討する。 【青梅市側】 必要な情報を提供し、協議・検討内容を市民センターの運用に活用する。

3 P D C A サイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	5	3
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	3
	協働の役割分担は適切だった	5	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	5	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	5	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	3	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

地域住民や施設利用者からの意見や要望を行政に伝えることができた。また、市民センターの運営状況等を理解することができた。

【青梅市側】

市民センターの運営状況について理解いただくとともに、市民センターのあり方等について意見や要望を聞くことにより、市民センターの運営に反映することができた。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

行政の報告等を踏まえ、市民センター運営について利用者の率直な意見や要望を伝えていく。

【青梅市側】

当協議会は報告がメインとなり、議題が形骸化している部分がある。市民センターのあり方等について、地域の意見や要望を聞くことにより、市民センターの運営に反映させていく。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	市民ウォーキング	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	青梅市自治会連合会第11支会		
担当課・係	市民活動推進課 今井市民センター		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	市民の体力増進、健康保持を目的に地域の名所旧跡を歩き歴史に触れ、地域の連帯と交流、親睦を図る。
(3) 実施内容	降雪により前日の夕方に中止を決定したため、事業実施には至らなかった。今井市民センターを出発し、水窪公園、藤橋城址、宝泉寺へと歩き（5.2km）、休憩等を含めて約2時間30分で今井市民センターへ戻る予定としていた。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	政策立案・事業企画（各種審議会・委員会で団体等から提案や意見を求める方法・団体等構成員が各種審議会に委員として参加すること。）
(2) 協働の理由・きっかけ	市民の体力増進、健康保持と地域の連帯と住民相互の交流、親睦を図るため第11支会を中心に参加者が集う。
(3) 役割分担	【協働団体側】 コースの実地踏査、第11支会各種団体への参加要請、開会式・閉会式の進行、ウォーキング中の運営等。 【青梅市側】 コースの検討と資料の作成、消耗品の購入、準備品の用意等。

3 P D C A サイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	事業実施は円滑になされた	2	2
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	2	2
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	3	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	2
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

市民の体力増進や健康保持と合わせ、参加者相互の親睦が図れる。

【青梅市側】

本事業は、行政と地域、地域間の親睦と協力を深めることができる事業であり、参加も容易なので、継続的に実施していくことが望ましいと考える。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

- ・ より多くの市民の参加が課題。
- ・ より魅力ある新たなコースの検討が課題。

【青梅市側】

- ・ より多くの市民の参加が課題。
- ・ より魅力ある新たなコースの検討が課題。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	おうめ環境フェスタ	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	おうめ環境市民会議		
担当課・係	環境政策課 管理係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	市民感覚を取り入れた、市民目線の環境に関する催事を通じ、日常的に環境を意識する市民啓発を行うこと。
(3) 実施内容	市内市民団体によるパネル展示および市内図書館内における環境関連図書コーナー設置、基調講演の実施、おうめ環境マップの作成・配布

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	平成20年度におうめ環境市民会議から提案を受け協働開始
(3) 役割分担	【協働団体側】 事業原案、会場設営、展示物提供、ワークショップ・当日の運営全般、講師の選任・依頼等 【青梅市側】 事業内容に関する協議と広報等のメディアによる募集、会場・事業予算の確保等

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	5	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	5	4
	協働の役割分担は適切だった	5	3
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	事業実施は円滑になされた	5	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	5	5
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	5	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

全市民に対して、広域に大量の広報配布ができた。広報物に対してのデザイン、編集等の相談、作成も丁寧で安心できた。
6月から12月までに分散した各行事の会場確保、設営、運行、スタッフの配置など各行事が無事に運営できた。

【青梅市側】

コロナ前に実施していた1点集客型の事業を見直し、年間を通じた環境啓発事業として実施することができた。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

新型コロナウイルス禍の中、安全上フェスタの各イベント実施日の分散化を試みて3年を経過したが、大きなイベントを年に1度たった1日の実施にある矛盾点も見えてきた。フェスタ実行委員の中にも、他のイベントに関心あるも、参加できない不満も解消でき、特に基調講演などは、記録的な入場人数も生み出している。環境をテーマにするイベントは、質的向上が求められることもあり、分散型の研究を深めたい。

【青梅市側】

特になし。

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート

事業名称	おうめ環境ニュース	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	おうめ環境市民会議		
担当課・係	環境政策課 管理係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	市民感覚を取り入れた市民目線の環境に関する広報紙を発行し、市民啓発をすること。
(3) 実施内容	紙面の構成や内容について協議をし、12,000部発行した。公共施設や市内の小中学校に配布した。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	平成19年度におうめ環境市民会議から提案を受け協議開始
(3) 役割分担	【協働団体側】 記事の作成 【青梅市側】 記事の作成、レイアウト原案、印刷業者との調整、印刷費等の予算確保

3 P D C Aサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	5
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	5
	協働の役割分担は適切だった	4	3
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	事業実施は円滑になされた	5	5
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	5	5
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	5	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

青梅市内の里山環境の復活・維持管理の取り組みなどの実例を特定の団体や主義主張に偏らずに掲載できることが望ましい。

【青梅市側】

身近な環境問題について、小・中学生に考えてもらう機会になった。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

青梅市内の里山環境の復活・維持管理の取り組みなどの実例を特定の団体や主義主張に偏らずに掲載できることが望ましい。

【青梅市側】

小・中学校の授業でタブレットを用いるようになったことから、電子版がほしいとの学校の意見を承ったので、配布のやり方を考える必要がある。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	クールビズ運動	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	青梅市環境連絡会		
担当課・係	環境政策課 ゼロカーボンシティ推進係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(3) 実施内容	青梅市環境連絡会を筆頭に市内の各種団体、事業者に協力を要請、事業所などの冷房温度抑制を通じた省エネの取組を実施した。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	環境問題に関する広範な取り組みの連携と拡大を目的に、平成21年に各種団体、事業者等と環境連絡会を発足、手軽にできる身近な取組として、「クールビズ」に取り組んだ。
(3) 役割分担	【協働団体側】 クールビズ運動の実践 【青梅市側】 企画と啓発物品（卓上のぼり旗）の配布、広報等のメディア展開、事業予算の確保

3 P D C A サイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	3	3
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	3	3
	協働の役割分担は適切だった	4	3
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	事業実施は円滑になされた	3	3
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	3	3
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	3	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

市内における省エネルギー対策の推進に関しては、事業者、家庭などを巻き込んだ活動が重要である。クールビズ運動は市全体を対象とした取り組みであるため、市民1人ひとりの環境意識向上に役立っている。（会議の中での意見集約であり、市民側と同意見）

【青梅市側】

市内における省エネルギー対策の推進に関しては、事業者、家庭などを巻き込んだ活動が重要である。クールビズ運動は市全体を対象とした取り組みであるため、市民1人ひとりの環境意識向上に役立っている。（会議の中での意見集約であり、市民側と同意見）

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

クールビズについては周知されてつつあると感じるが、引き続き継続的な周知啓発が必要である。SNSや国等の啓発ツールを活用して、さらなる周知を図り、事業の浸透に努めたい。（会議の中での意見集約であり、市民側と同意見）

【青梅市側】

クールビズについては周知されてつつあると感じるが、引き続き継続的な周知啓発が必要である。SNSや国等の啓発ツールを活用して、さらなる周知を図り、事業の浸透に努めたい。（会議の中での意見集約であり、市民側と同意見）

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	みんなで打ち水！	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	青梅市環境連絡会		
担当課・係	環境政策課 ゼロカーボンシティ推進係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(3) 実施内容	青梅市環境連絡会を筆頭に市内の各種団体、事業者に協力を要請、事務所などの打ち水を通じた省エネの取組を実施した。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	環境問題に関する広範な取組の連携と拡大を目的に、平成21年に各種団体、事業者等と環境連絡会を発足、手軽にできる身近な取組として、「みんなで打ち水」に取り組んだ。
(3) 役割分担	【協働団体側】 打ち水の実践 【青梅市側】 周知活動

3 P D C A サイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	3	3
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	3	3
	協働の役割分担は適切だった	4	3
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	3
	事業実施は円滑になされた	3	3
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	3	3
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	3	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

市内における省エネルギー対策の推進に関しては、事業者、家庭などを巻き込んだ活動が重要である。「みんなで打ち水！」は市全体を対象とした取り組みであるため、市民1人ひとりの環境意識向上に役立っている。（会議での意見集約のため市民側と同意見）

【青梅市側】

市内における省エネルギー対策の推進に関しては、事業者、家庭などを巻き込んだ活動が重要である。「みんなで打ち水！」は市全体を対象とした取り組みであるため、市民1人ひとりの環境意識向上に役立っている。（会議での意見集約のため市民側と同意見）

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

ホームページやSNSで周知するほか、クールビズ・打ち水ポスターを作成したことで、一定の啓発はできたと考えるが、今後においても更なる周知啓発を行い、事業の浸透に努めたい。（会議での意見集約のため市民側と同意見）

【青梅市側】

ホームページやSNSで周知するほか、クールビズ・打ち水ポスターを作成したことで、一定の啓発はできたと考えるが、今後においても更なる周知啓発を行い、事業の浸透に努めたい。（会議での意見集約のため市民側と同意見）

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	ウォームビズ運動	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	青梅市環境連絡会		
担当課・係	環境政策課 ゼロカーボンシティ推進係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(3) 実施内容	青梅市環境連絡会を筆頭に市内の各種団体、事業者に協力を要請、事務所などの暖房温度抑制を通じた省エネの取り組みを実施した。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	環境問題に関する広範な取組の連携と拡大を目的に、平成21年に各種団体、事業者等と環境連絡会を発足、手軽にできる身近な取組として、「ウォームビズ」に取り組んだ。
(3) 役割分担	【協働団体側】 ウォームビズ運動の実践 【青梅市側】 企画と啓発物品（卓上のぼり旗）の配布、広報等のメディア展開、事業予算の確保

3 P D C Aサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	3	3
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	3	3
	協働の役割分担は適切だった	4	3
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	事業実施は円滑になされた	3	3
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	3	3
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	3	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

市内における省エネルギー対策の推進に関しては、事業者、家庭などを巻き込んだ活動が重要である。ウォームビズ運動は、市全体を対象とした取り組みであるため、市民1人ひとりの環境意識向上に役立っている。（会議での意見集約のため市民側と同意見）

【青梅市側】

市内における省エネルギー対策の推進に関しては、事業者、家庭などを巻き込んだ活動が重要である。ウォームビズ運動は、市全体を対象とした取り組みであるため、市民1人ひとりの環境意識向上に役立っている。（会議での意見集約のため市民側と同意見）

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

ウォームビズについては周知されつつあると感じるが、引き続き継続的な周知啓発が必要である。SNSや国等の啓発ツールを活用してさらなる周知を図り、事業の浸透に努めたい。（会議での意見集約のため市民側と同意見）

【青梅市側】

ウォームビズについては周知されつつあると感じるが、引き続き継続的な周知啓発が必要である。SNSや国等の啓発ツールを活用してさらなる周知を図り、事業の浸透に努めたい。（会議での意見集約のため市民側と同意見）

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	エコアクション	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	青梅市環境連絡会		
担当課・係	環境政策課 ゼロカーボンシティ推進係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	新規事業（今回の実施が初めての事業）
(2) 事業の目的	カーボンニュートラル実現に向けた環境意識の向上
(3) 実施内容	青梅市環境連絡会を筆頭に市内の各種団体、事業者に協力を要請し、事務所や家庭において二酸化炭素排出量の削減につながる行動である「エコアクション」を実践した。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	カーボンニュートラル実現に向けた取組の拡大を目的として、クールビズ運動等の協働事業を実施してきた環境連絡会に対して、これまで市役所内で実践してきた「職員エコアクション」の取組を協働事業とすることを提案し、了承いただき、実施に至った。
(3) 役割分担	【協働団体側】 エコアクションの実践 【青梅市側】 企画と周知、実践結果の集約

3 P D C A サイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	3	3
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	3	3
	協働の役割分担は適切だった	4	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	3	3
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	3	3
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	3	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果
【協働団体側】 市内における省エネルギー対策の推進に関しては、事業者、家庭などを巻き込んだ活動が重要である。これまで市役所内で実施していた「エコアクション」を協働事業したことで、市民1人ひとりの環境意識向上に役立っている。（会議の中での意見集約であり、市民側と同意見）
【青梅市側】 市内における省エネルギー対策の推進に関しては、事業者、家庭などを巻き込んだ活動が重要である。これまで市役所内で実施していた「エコアクション」を協働事業したことで、市民1人ひとりの環境意識向上に役立っている。（会議の中での意見集約であり、市民側と同意見）
(2) 今後の課題および改善事項など
【協働団体側】 エコアクションの取組内容については、周知されてつつあると感じるが、引き続き継続的な周知啓発が必要である。SNSや国等の啓発ツールを活用して、さらなる周知を図り、事業の浸透に努めたい。（会議の中での意見集約であり、市民側と同意見）
【青梅市側】 エコアクションの取組内容については、周知されてつつあると感じるが、引き続き継続的な周知啓発が必要である。SNSや国等の啓発ツールを活用して、さらなる周知を図り、事業の浸透に努めたい。（会議の中での意見集約であり、市民側と同意見）

5 事業の様子（写真等）

Empty space for photos and descriptions

協働事業評価シート

事業名称	エコドライブ運動	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	青梅市環境連絡会		
担当課・係	環境政策課 ゼロカーボンシティ推進係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(3) 実施内容	青梅市環境連絡会を筆頭に市内の各種団体、事業者に協力を要請、保有車両のエコドライブを通じた省エネの取組を実施した。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	環境問題に関する広範な取組の連携と拡大を目的に、平成21年に各種団体、事業者等と環境連絡会を発足、手軽にできる身近な取組として「エコドライブ」に取り組んだ。
(3) 役割分担	【協働団体側】 エコドライブの実践 【青梅市側】 啓発物品（ステッカー）の配布、広報等のメディア展開

3 P D C A サイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	3	3
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	3	3
	協働の役割分担は適切だった	4	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	事業実施は円滑になされた	3	3
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	3	3
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	3	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

市内における省エネルギー対策の推進に関しては、事業者、家庭などを巻き込んだ活動が重要である。エコドライブ運動は地球温暖化対策だけでなく、マナーアップにもつながる運動であり、市民1人ひとりの意識向上に役立っている。（会議での意見集約のための市民側と同意見）

【青梅市側】

市内における省エネルギー対策の推進に関しては、事業者、家庭などを巻き込んだ活動が重要である。エコドライブ運動は地球温暖化対策だけでなく、マナーアップにもつながる運動であり、市民1人ひとりの意識向上に役立っている。（会議での意見集約のための市民側と同意見）

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

エコドライブは決まった10項目の取組みがある。温暖化対策、マナーアップの両面から、SNSや国等の啓発ツールを活用してさらなる周知啓発に努めたい。（会議での意見集約のための市民側と同意見）

【青梅市側】

エコドライブは決まった10項目の取組みがある。温暖化対策、マナーアップの両面から、SNSや国等の啓発ツールを活用してさらなる周知啓発に努めたい。（会議での意見集約のための市民側と同意見）

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	みどりのカーテン事業	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	青梅ガス株式会社、西東京農業協同組合		
担当課・係	環境政策課 管理係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	地球温暖化防止に向けた環境および緑の保全意識の向上
(3) 実施内容	市内の一般家庭および事業者を対象とするみどりのカーテンモニターへのゴーヤの苗の配布を実施した。また、一般家庭および事業所を対象にみどりのカーテンコンテストを実施し、11月3日の産業観光まつりで表彰式を行った。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	青梅ガス(株)から環境・地域貢献協力の申し出を受け、行政側からみどりのカーテンコンテスト事業を提案、合意した。 その後、青梅ガス(株)を介して西東京農業協同組合も加わり、三者の協働事業として実施した。
(3) 役割分担	【協働団体側】 副賞代の提供、審査の協力 【青梅市側】 周知活動（広報・ホームページ）および受付等の事務

3 P D C A サイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	3	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	3	4
	協働の役割分担は適切だった	3	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	3	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	4
	事業実施は円滑になされた	3	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	3	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	3	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	2	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	1	3
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

回答なし

【青梅市側】

みどりのカーテン事業全体を通じて、行政側、市民側がそれぞれ広報することで、より広く周知できた。また、みどりのカーテンコンテストの実施は、みどりのカーテン育成の周知啓発につながったと考える。

(2) 今後の課題および改善事項など

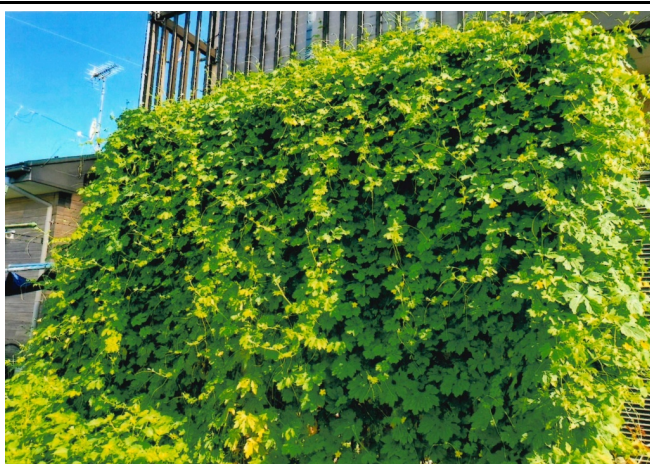
【協働団体側】

毎年実施している事業のため実施方法自体に大きな変更はないのですが、今後は少しずつでも新しい要素を取り入れていくことをご検討いただくのも良いかと思います。

【青梅市側】

みどりのカーテンモニター配布について、募集枠が余っていたのでSNSによる周知を行ったところ、想定よりも多い数の申し込みが来てしまい、対応ができなかった。

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート

事業名称	ワクワク！ドキドキ！！水辺の探検隊	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	青梅・多摩川水辺のフォーラム		
担当課・係	環境政策課 管理係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	多摩川周辺の自然を活用した水辺体験学習および環境学習を通じて、青梅市の子どもたちが自然と環境の大切さを体験することができる機会の充実を図るとともに、豊かな人間性を育むことを目的とする。
(3) 実施内容	川での安全な遊び方教室、魚のつかみ取りから焼いて食べるまで、川の生き物捕獲等

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業委託（市と団体等との間で契約を締結し、委託して事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業拡充の目的で、平成20年度に「水辺の連絡会」を設立、これを契機に協働をスタートさせた。
(3) 役割分担	【協働団体側】 事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 【青梅市側】 事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保

3 P D C A サイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	5	5
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	5	5
	協働の役割分担は適切だった	5	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	1	1
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	1	1
	事業実施は円滑になされた	1	1
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	1	1
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	1	1
	協働で行うことにより効果がある事業だった	1	1
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	1	1
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

当初実施を予定していた日は天候不順により延期。また延期先の日も台風10号の影響により中止を決定。そのため、本項目は記入対象外

【青梅市側】

事業実施に際し、市民団体のもつ様々なノウハウ、プログラムは豊富かつ充実したものであり、過去も含め市民協働にふさわしい事業となっている。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

当初実施を予定していた日は天候不順により延期。また延期先の日も台風10号の影響により中止を決定。そのため、本項目は記入対象外

【青梅市側】

特になし。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	多摩川まると遊び塾	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	青梅・多摩川水辺のフォーラム		
担当課・係	環境政策課 管理係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	多摩川周辺の自然を活用した水辺体験学習および環境学習を通じて、青梅市の子どもたちが自然と環境の大切さを体験することができる機会の充実を図るとともに、豊かな人間性を育むことを目的とする。
(3) 実施内容	川での安全な遊び方教室、水棲生物の捕獲と観察、ライフジャケット等を用いた水辺の遊び、移動水族館（多摩川に棲む魚等の展示や解説）

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業拡充の目的で、平成20年度に「水辺の連絡会」を設立、これを契機に協働をスタートさせた。
(3) 役割分担	【協働団体側】 事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 【青梅市側】 事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保

3 P D C A サイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	5	5
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	5	5
	協働の役割分担は適切だった	5	5
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	事業実施は円滑になされた	5	5
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	5	5
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	5	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

市民側では企画、運営および小学校との連携を主な役割とした。行政側は広報、ライフジャケット準備などを実施。広報に関しては広報誌に写真付きで大きく載せたり、青梅市LINEで発信したりと、大きな宣伝効果、集客に繋がった。また一般受付を行政側で行い、久しぶりにキャンセル待ちが発生するも、申込者に状況を伝え、問題なく対応いただいた。当日は水量が多く、例年と異なる場所（少し下流）を使用するにあたり、安全性を含めて判断してもらえた。

【青梅市側】

事業実施に際し、市民団体のもつ様々なノウハウ、プログラムは豊富かつ充実したものであり、過去も含め市民協働にふさわしい事業となっている。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

申込者が何を見て申し込んでいるのか、確認するスキームとなっていない（広報誌や青梅市LINE、市民側のホームページやFacebook、配布チラシなど）。それを確認することで、様々な広報活動の効果を把握でき、今後に向けた見直しや強化に繋がられる。申込時もしくは当日のアンケートで、行政側で把握して欲しい。

【青梅市側】

特になし。

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート

事業名称	がんばれ！あゆっ子2024	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	NP0法人奥多摩川友愛会		
担当課・係	環境政策課 管理係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(3) 実施内容	稚鮎の放流、多摩川の鮎の話、安全な川遊び紙芝居、ヤマメ、ニジマスのつかみ取り

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業委託（市と団体等との間で契約を締結し、委託して事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業の一環として、平成18年度から協働事業としてスタートした。
(3) 役割分担	【協働団体側】 事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 【青梅市側】 事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保

3 P D C A サイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	5	5
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	5	5
	協働の役割分担は適切だった	5	5
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	事業実施は円滑になされた	4	5
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	5
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	5
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	3
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

協働事業を行なうことで青梅市と市民団体の距離を減少することが出来る。
協働事業の話し合いのもと、お互いの役割を明確にして行なうことができ、協働相手の考えや行動も把握できスムーズに活動することが出来る。
行政との協働事業を行なうことで、イベントの信頼性が高まり市民と主催団体の距離がより近くなる。

【青梅市側】

事業実施に際し、市民団体のもつ様々なノウハウ、プログラムは豊富かつ充実したものであり、過去も含め市民協働にふさわしい事業となっている。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

各年度の活動が終了した時点で次年度に向けての反省点をもっとお互い明確にして次年度に向かうことが望ましい。
詳しく反省でき合う反省会を開催できれば有り難い。
各団体の市民への紹介会員募集を行政により取り組んでもらいこの協働事業を未来に引き継げれば良いと思う。

【青梅市側】

特になし

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート

事業名称	第16回炭焼き体験と水辺の交流会	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	美しい多摩川フォーラム		
担当課・係	環境政策課 管理係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	炭焼きや水辺の安全教室を通じ、自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(3) 実施内容	竹炭作り、魚のつかみ取り、ライフジャケット浮力体験等

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業委託（市と団体等との間で契約を締結し、委託して事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業拡充の目的で、平成20年度に「水辺の連絡会」を設立、当該事業は平成23年度から開始した。
(3) 役割分担	【協働団体側】 事業のプランニング、NP0法人日本エコクラブ等との調整および当日スタッフとして運営に当たる。 【青梅市側】 事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保

3 P D C Aサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	5	5
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	5	5
	協働の役割分担は適切だった	5	5
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	5	5
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	5	5
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	5
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

青梅市共催事業ということにより市民は安心して申込された。「広報おうめ」に募集記事が掲載されると早々に定員超過となり、キャンセル待ちが出るほど相変わらずの人気ぶりであった。青梅市には、ライフジャケット・ヘルメットの貸し出しをはじめ、スタッフの一員としてニジマス・ヤマメを焼いていただくなど全面的にサポートいただき、協働による効果は絶大であった。

【青梅市側】

内容、運営体制ともに安定感がある。同団体が所有管理する炭焼き窯を利用した炭焼き体験と、周辺の自然豊かな川での自然体験をミックスした内容は、環境学習としての密度も高い。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

事故が発生しないように、安全には万全を期しておりますが、経験のある指導員を十分に確保し、最新の注意を払って臨みたい。発生したゴミについては、各自持ち帰りを徹底し、引き続きゴミの少量化に努めていきたい。

【青梅市側】

特になし。

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート

事業名称	お魚釣り	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	霞川くらしの楽校		
担当課・係	環境政策課 管理係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(3) 実施内容	魚釣り、釣った魚の観察・解説

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業委託（市と団体等との間で契約を締結し、委託して事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	通年の様々な川遊びを子供たちに継承したいとの提案があり、実施した。
(3) 役割分担	【協働団体側】 事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 【青梅市側】 事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保

3 P D C A サイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	5	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	5	4
	協働の役割分担は適切だった	5	3
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	5	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	5	5
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	5	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	3
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

会場内を賑やかにするために、冒険的に市内の他の団体の参加を求めた、幸い青梅草笛クラブが手を挙げてくれた。例年北多摩工事事務所殿が河川の草刈りに汗を流してくれる。お陰で5月以降の川の行事がスムーズに出来る。有難いものです。

【青梅市側】

事業実施に際し、市民団体のもつ様々なノウハウ、プログラムは豊富かつ充実したものであり、過去も含め市民協働にふさわしい事業となっている。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

委託金は、委託作業終了後支払われるが、私たちは利益を得ている団体にはありません。従って余分な資金はありません。半分でも前渡金の形で支払っていただけるとありがたいです。最近の天候不順は激しい、日程決定へ、当日の天候観察に特段の注意を要する。

【青梅市側】

特になし。

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート

事業名称	親子魚釣り教室 2024「青梅とニジマス」	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	NP0法人奥多摩川友愛会		
担当課・係	環境政策課 管理係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(3) 実施内容	溪流釣り未経験の参加者に、釣りを通じた自然体験をしてもらうのと同時に、奥多摩川友愛会会員の講義指導を通じ、河川環境保護の重要性等も説明した。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業委託（市と団体等との間で契約を締結し、委託して事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業の一環として、平成21年度から協働事業としてスタートした。
(3) 役割分担	【協働団体側】 事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 【青梅市側】 事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保

3 P D C A サイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	5	5
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	5
	協働の役割分担は適切だった	5	5
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	事業実施は円滑になされた	4	5
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	5
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

協働事業を行なうことで青梅市と市民団体の距離をより近いものにすることが出来る。

協働による話し合いのもと、お互いの役割を明確にして行なうことができ、協働相手の考えや行動も把握できスムーズに活動することが出来る。

行政から情報発信できるので信頼ある情報を市民に発信できる。

【青梅市側】

事業実施に際し、市民団体のもつ様々なノウハウ、プログラムは豊富かつ充実したものであり、過去も含め市民協働にふさわしい事業となっている。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

各年度の活動が終了した時点で次年度に向けての反省点をもっとお互い明確にして次年度に向かうことが望ましい。

詳しく反省でき合う反省会を開催できれば有り難い。

ただ、魚を釣るだけで一日を過ごすのではなく、魚釣りから親子の絆を今以上に深めてもらうことを重要視していきたい。

【青梅市側】

特になし。

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート

事業名称	飼い主のいない猫のための里親会	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	おうめ猫の会		
担当課・係	環境政策課 管理係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	公益社団法人どうぶつ基金から受領した「さくら猫無料不妊去勢手術チケット」を使用し、市内の飼い主のいない猫の捕獲、不妊去勢手術を施行し、捕獲した場所に戻す。
(3) 実施内容	手術実施頭数 5 頭

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	公益社団法人どうぶつ基金の「さくら猫無料不妊去勢手術チケット」行政枠ができることが分かったため
(3) 役割分担	【協働団体側】 猫の捕獲、動物病院への運搬、捕獲した場所に戻す 【青梅市側】 公益社団法人どうぶつ基金へ「さくら猫無料不妊去勢手術チケット」の申請、実施報告

3 P D C A サイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	5	5
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	5	4
	協働の役割分担は適切だった	5	5
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	事業実施は円滑になされた	5	5
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

TNR活動はここ数年とてもスムーズになった。

【青梅市側】

行政ではできない捕獲、不妊・去勢手術をボランティア団体とともに実施し続けたことにより、以前より飼い主のいない猫に関する市への相談が減った、また、飼い主のいない猫を見かけることが減少しているように見受けられる。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

ボランティアが高齢化しているのでTNR活動の担い手が不足してきている。一般市民にこの活動を認知してもらい、促していくことが大切と考える。

【青梅市側】

どうぶつ基金の運用が変わり、行政枠チケットの発行枚数が削減されたため、今後は個人枠での申請について行政がサポートする体制を整えていく。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	動物愛護週間inおうめ	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	おうめ猫の会		
担当課・係	環境政策課 管理係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	動物愛護に関する講演会または映画会や動物愛護に関する展示を通じて市民への動物愛護の啓発を行う。
(3) 実施内容	動物愛護に関する講演会または映画会や動物愛護に関する展示会の実施

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	平成24年度から新たな協働事業として提案があった。
(3) 役割分担	【協働団体側】 活動紹介に関する展示ブースの運営 【青梅市側】 広報などによる周知、会場準備

3 P D C Aサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	3	4
	協働の役割分担は適切だった	3	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	3	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	3	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	3	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

- ・ 市民に対する啓発

【青梅市側】

ボランティア団体と協働で実施することで、動物愛護や市内の猫の問題について、広く啓発できると共に、団体の活動内容も紹介することができた。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

- ・ 猫ブースの場所の検討
- ・ 猫行政の宣伝不足

【青梅市側】

動物愛護に関する講演会または映画会の内容については、市民がより関心を持てるものを選定する必要がある。

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート

事業名称	さくらねこ無料不妊手術事業	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	おうめ猫の会		
担当課・係	環境政策課 管理係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	公益社団法人どうぶつ基金から受領した「さくら猫無料不妊去勢手術チケット」を使用し市内の飼い主のいない猫の捕獲、不妊去勢手術を施行し、捕獲した場所に戻す。
(3) 実施内容	野良猫に関する相談があった場合の、TNR活動（不妊去勢手術後元の場所に戻す活動）の検討

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	公益社団法人どうぶつ基金の「さくら猫無料不妊去勢手術チケット」行政枠ができることが分かったため
(3) 役割分担	【協働団体側】 猫の捕獲、動物病院への運搬、捕獲した場所に戻す 【青梅市側】 公益社団法人どうぶつ基金へ「さくら猫無料不妊去勢手術チケット」の申請、実施報告

3 P D C Aサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	3	3
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	3	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	5
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

野良猫の減少

【青梅市側】

飼い主のいない猫の著しい減少

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

通院の人員の確保

【青梅市側】

市内で飼い主のいない猫に餌やりを行っている方に対して、エサやりの方法や地域猫活動について広報等を活用し、継続して周知するようにしたい。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	「生物多様性人材育成講座」地球の歴史を知ろう！	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	美しい多摩川フォーラム		
担当課・係	環境政策課 管理係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	平成30年度に制定した「生物多様性地域戦略」にもとづく人材育成事業として、次世代のリーダー育成を目的とする。
(3) 実施内容	令和6年8月1日に青梅市役所2階204、205会議室にて、生物多様性に関する育成講座を実施。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業協力（市と団体等との間で協定により一定期間、継続的に事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	平成30年度に制定した「生物多様性地域戦略」にもとづく人材育成事業として、市から市民団体に協働提案した。
(3) 役割分担	【協働団体側】 講師の提供。講演資料の作成。 【青梅市側】 事業内容に関する協議と、広報、小・中学生向けチラシによる募集、事業予算の確保。

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	5	5
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	5
	協働の役割分担は適切だった	5	5
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	事業実施は円滑になされた	4	5
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	5	5
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	5
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	5
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

事業実施に際し、当フォーラムより講師を紹介させていただき、当フォーラムの会員に講座内容を告知するなど、役割分担を明確にして連携して実施することができた。親しみやすい講座名に変更して「広報おうめ」に募集記事を掲載することにより、参加人数の増加につながった。

【青梅市側】

昨年と比べ多くの方が参加し、子どもたちが生物多様性について考えるきっかけになることができた。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

地球の歴史を知り、地球の将来を考える良い機会になったと考える。今後、シリーズ化して内容をさらに充実させていくことを検討していきたい。

【青梅市側】

募集人数よりも多くの方が参加を希望していたため、もっと大きい教室の確保が必要。

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート

事業名称	「生物多様性人材育成講座」バードウォッチング～青梅に棲む野鳥を見つけよう～	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	日本野鳥の会奥多摩支部		
担当課・係	環境政策課 管理係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	新規事業（今回の実施が初めての事業）
(2) 事業の目的	平成30年度に制定した「生物多様性地域戦略」にもとづく人材育成事業として、次世代のリーダー育成を目的とする。
(3) 実施内容	令和7年3月28日に河辺市民球技場川原で、生物多様性に関する人材育成講座を開催。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業委託（市と団体等との間で契約を締結し、委託して事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	平成30年度に制定した「生物多様性地域戦略」にもとづく人材育成事業として、市から市民団体に協働提案した。
(3) 役割分担	【協働団体側】 講師の提供。当日の講義。 【青梅市側】 事業内容に関する協議と、広報、SNSによる周知、事業予算の確保

3 P D C A サイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	5	5
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	3	4
	協働の役割分担は適切だった	5	5
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	事業実施は円滑になされた	5	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	3	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	5
	協働で行うことにより効果がある事業だった	3	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

広報誌に写真付きで掲載でき、スペースとしてもよかった。青梅の自然について興味を持ってもらえるよう参加者の目線で解説した。

【青梅市側】

フィールドワーク型の講座を実施することによって、子どもたちが生物多様性について考えるきっかけになった。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

通常、広報誌に写真付きで掲載した場合、数十人の申し込みがあるのだが、今回は反応があまりなかった。考えられる点としては「人材育成講座」という題名が障害になっていたと思う。自然と関わり合うきっかけを作ってもらうためにも「親子バードウォッチング」「初心者でも楽しめるバードウォッチング」など参加したら楽しそうだなと思える仕掛けを作った方がいい。

【青梅市側】

広報、SNSによる周知を行ったが、参加者が少なかった。バードウォッチングがあまり子供向けのテーマではなかったように感じた。

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート

事業名称	流れのゆるやかな川・霞川で川遊び	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	霞川くらしの楽校		
担当課・係	環境政策課 管理係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(3) 実施内容	川遊び・草笛・どろ団子づくり

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業委託（市と団体等との間で契約を締結し、委託して事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	通年の様々な川遊びを子供たちに継承したいとの提案があり、実施した。
(3) 役割分担	【協働団体側】 事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 【青梅市側】 事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保

3 P D C Aサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	5	3
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	5	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	5	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	5	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	3
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

子ども達の安全と安心を得るため、西多摩建設事務所によって草刈りを実施している。この草刈りがあることにより、以後の川での活動が可となっている。

【青梅市側】

事業実施に際し、市民団体のもつ様々なノウハウ、プログラムは豊富かつ充実したものであり、過去も含め市民協働にふさわしい事業となっている。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

広報おうめで募集活動を行うが、紙面が小さく効果が小さいのでは。

【青梅市側】

特になし

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート

事業名称	「資源物・ごみ収集カレンダー」の点訳事業	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	青梅点訳グループ		
担当課・係	清掃リサイクル課 ごみ減量推進係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	視覚障がい者のうち、点訳された「資源物・ごみ収集カレンダー」を必要とされる方のために、点字版を作製し配布する。
(3) 実施内容	令和7年度版「資源物・ごみ収集カレンダー」の点訳版の作製（窓口用A～H地区8種類各1部、資源物・ごみの出し方1部、分別一覧1部）、視覚障がい者の希望者3名分の作製・配付、中央図書館内での閲覧用の作製・送付（カレンダー点字版閲覧用A～H地区8種類を各1部、資源物・ごみの出し方1部、分別一覧1部）。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業協力（市と団体等との間で協定により一定期間、継続的に事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	団体等からの提案。資源物・ごみ収集カレンダーを点訳できるグループであったため。
(3) 役割分担	【協働団体側】 点字版の資料を作製し、行政側に提供する。 【青梅市側】 広報おうめ、市ウェブサイトで周知し、希望者へ配布する。

3 P D C Aサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	5	5
	協働の役割分担は適切だった	5	5
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	事業実施は円滑になされた	5	5
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	5	5
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	5	5
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

希望する方に、期限を守り届ける事ができた。
話し合いの機会を今までより多く持つことができ、
点字版カレンダーの周知の新しい方法を考えていただけて良かった。

【青梅市側】

点訳を行うには専門的な知識が必要となることから、専門知識を有する業者に業務委託が必要となり、相応の費用が必要になるという課題がある。点訳を専門とする青梅点訳の会が作製し、市が周知および送付をするという役割分担を担うことで用紙代等の消耗品費の負担だけで効果的な事務ができる。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

より多くの方に、点字版カレンダーの存在を知って
いただく為の方法を今後も話し合っていきたい。

【青梅市側】

「資源物・ごみ収集カレンダー」の点字版については、広報おうめ等で周知を図っているところだが、点字版の存在を知ってもらうため、周知の拡大が課題である。
今年度は、中央図書館閲覧用を作製し配架を依頼するなど周知の拡大を行った。

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート

事業名称	大塚山いこいの森ボランティア	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	いこいの森を育てる会（近隣5自治会・青梅市立第四小PTA・青少対第8地区委員会）		
担当課・係	公園緑地課 わくわく公園係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	・大塚山いこいの森の緑豊かな環境と景観を形成し、快適な生活環境を創出すること。 ・大塚山いこいの森を市民の自然体験および学習の場として活用すること。
(3) 実施内容	令和7年1月18日：大塚山いこいの森広場で樹名板の設置、隣接する青梅市立第四小学校体育館で「ネイチャークラフト教室（自然の素材を使った工作体験）」を実施。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業協力（市と団体等との間で協定により一定期間、継続的に事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	大塚山いこいの森を市民の自然体験および学習の場として良好な状態に保つため、いこいの森を育てる会（構成団体：近隣5自治会・青梅市立第四小PTA・青少対第8地区委員会）と管理協定を締結したことによる。
(3) 役割分担	【協働団体側】 ・活動に対する提案や意見の提示、参加者の動員 【青梅市側】 ・企画立案、協働団体への提案、意見交換 ・事業の主催

3 P D C Aサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	3	3
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	3	3
	協働の役割分担は適切だった	4	3
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	3
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	事業実施は円滑になされた	3	3
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	3	3
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	3	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

ボランティアと協働で自然に親しむ作業体験が実施でき、市民の自然体験や学習の場として提供することができた。

【青梅市側】

作業を協働で行うことにより、市民の大塚山いこいの森や自然への親しみが生まれること。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

より多くの市民が参加してもらえるように、樹名板の取付、ネイチャークラフト教室といった体験型の事業を引き続き実施していきたい。

【青梅市側】

多くの参加をいただけるよう、実施時期および内容の検討や周知方法を工夫する必要がある。

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート

事業名称	緑地管理ボランティア	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	緑地管理ボランティア		
担当課・係	公園緑地課 わくわく公園係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	下草刈りや間伐等の緑地管理作業等をボランティアで行うことによって公園等の大切さをい実感しつつ、行政と一体となって公園・緑地の利用推進ならびに緑の保全および育成を図るとともに、ボランティア相互の親睦を深め、もってボランティアによる自主的な緑地管理運営を図ること。
(3) 実施内容	令和7年1月18日：大塚山いこいの森広場で樹名板の設置、隣接する青梅市立第四小学校体育館で「ネイチャークラフト教室（自然の素材を使った工作体験）」の開催補助。 令和7年3月8日：意見交換会（ボランティア、公園緑地課職員）を実施し、今後の活動方針・内容を話し合った。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業協力（市と団体等との間で協定により一定期間、継続的に事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	公園の整備により施設が充実し、公園として「成熟した状態」になったことから、今後の公園整備を地域コミュニティやボランティアとの連携により実施する方針とした。
(3) 役割分担	【協働団体側】 ・提案、意見交換、評価 ・事業への参加、作業の実施 【青梅市側】 ・企画立案、提案 ・ボランティア事業の運営

3 P D C Aサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	3	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	3	4
	協働の役割分担は適切だった	3	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	3	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	4
	事業実施は円滑になされた	3	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	3	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	3	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	3	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

大塚山いこいの森ボランティアの開催を補助することにより、子ども達に公園や自然への親しみを持つきっかけ作りの一助となった。

【青梅市側】

市民に公園や緑地への親しみを深め、緑化推進や環境保全への理解を深める機会を提供できた。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

公園や緑地の下草刈りや樹木の整備作業を実施し、快適な公園の環境を市と一緒に創り上げていきたい。

【青梅市側】

引き続き公園・緑地の整備を協働で実施できるよう協議を進めていきたい。

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート

事業名称	青梅の森保全プロジェクト（青梅の森保全事業）	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	青梅の森保全プロジェクト協力団体（西多摩自然フォーラム、森林ボランティア、森守会、NPO法人青梅林業研究グループ、日本野鳥の会奥多摩支部、青梅さとやま散歩の会、青梅の自然と環境を守る会）		
担当課・係	公園緑地課 みどり推進係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	青梅の森およびその周辺で市が管理する地域において、保全活動等を行う各種団体等と市が協働で青梅の森保全事業を行い、市民が自然とふれあえる場や里山の仕組みを体験・学習する場、散策やハイキング等のレクリエーションの場として活用することを目的とする。
(3) 実施内容	情報共有・意見交換を目的にした会議を令和6年5月、令和7年1月および令和7年3月の計3回開催するとともに、協働により青梅の森内の下草刈り、外来植物除去、間伐、ヨシ抜き、ヨシ刈り作業、野鳥観察、ナラ枯れ対策を実施した。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	市民や関係団体等と連携した青梅の森の管理運営により市民が自然とふれあえる場として活用するとともに、貴重な生物を育む里山環境の整備と保全のため。
(3) 役割分担	【協働団体側】 企画・運営 【青梅市側】 事務局・運営

3 P D C Aサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	3	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	3	4
	協働の役割分担は適切だった	3	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	3	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	4
	事業実施は円滑になされた	3	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	3	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	3	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

杣保プロジェクト会議により参加団体間の意見交換と調整、行政との意思疎通を図ることができた。
杣保プロジェクト参加団体の活動および協働作業により、青梅の森の保全・整備を推進した。

【青梅市側】

台風等による被害や倒木等の報告、応急的な対応等を迅速に行ってもらうことで、青梅の森での事故発生等を未然に防ぐことができた。
ボランティア団体によるカシノナガキクイムシ捕獲調査をはじめ、青梅の森内の外来植物除去作業にも参加いただき、新たな協働事業を拡大し、生態系の保全の一助となった。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

北谷津で活動を行うには、トイレが無いのがネックになっている。
移動してくるハイカーの利用コースでもあるのでトイレの設置が必要である。
風の子太陽の子広場の拠点施設に設けられた市民団体用の倉庫は、容量が小さくて、杣プロ団体が青梅の森で使用する道具を収容しきれない。対応を考えてほしい。

【青梅市側】

青梅の森の保全・整備事業にかかるボランティア団体会員の高齢化が進んでいる。今後は、新規団体の加入のお願いや、若い世代の方が積極的に保全活動ができる環境等について団体と行政とが施策等を協創していく必要がある。

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート

事業名称	見守り支援ネットワーク事業	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	見守り支援ネットワーク事業協定締結事業者		
担当課・係	高齢者支援課 いきいき高齢者係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	一人暮らし高齢者等の見守りを充実させるため、地域における見守りを強化し、何か異変を感じた際には市や関係機関などに連絡をいただき、市や関係機関では安否確認等を行い、市民の安心安全を図ることを目的としている。
(3) 実施内容	市内で活動する事業者等が、事業活動に際して行う地域に住む高齢者等のゆるやかな見守りを実施することで異変を早期に発見し、市や関係機関と連携することで早期の対応を図る。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	協定締結事業者は市内で事業を行っており、地域における高齢者等の社会的弱者と接する機会も多いため。
(3) 役割分担	【協働団体側】 地域でゆるやかな見守り活動を実施し、異変を感じた場合、市や関係機関等と連携し安否確認を実施する。 【青梅市側】 情報提供を受けた案件について、関係機関等と連携し安否確認を実施する。

3 P D C A サイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	5
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

前日や先週の取り残しがあるときの対応、ご家族様との連携がスムーズでこちらでも安心できました。何かあったときには、すぐに相談させていただきたいです。

【青梅市側】

民間事業者等との協力により、行政だけでは困難であった地域密着による見守り活動について、民間事業者等が主体となり見守り活動を実施したことにより、地域力の強化を図ることができる。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

特にありません。

【青梅市側】

地域住民との連携をさらに充実させていくことが重要であるため、民間事業者等のほか地域住民も含めた見守り体制の充実が求められている。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	高齢者向けスマートフォン教室・パソコン教室開催事業	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	パソコンボランティア青梅		
担当課・係	高齢者支援課 いきいき高齢者係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	高齢者のデジタルデバйд解消に向けた取り組みの一環として、ICT機器を活用したコミュニケーションや電子サービスの活用を促進することにより、もって高齢者の市民生活の質を向上させること
(3) 実施内容	福祉センターで、偶数月にスマートフォン教室、奇数月にパソコン教室をそれぞれ月1回開催。延参加者数は139人。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業協力（市と団体等との間で協定により一定期間、継続的に事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	令和5年度市民提案協働事業「高齢者のデジタルデバйд解消」によりボランティア団体と協働で実施することとなった。
(3) 役割分担	【協働団体側】 教室の実施・教育機材の貸出し（パソコン教室のみ）・利用するアプリケーションの選定 【青梅市側】 情報提供・広報周知・参加申込み受付・会場の確保・その他事業の実施に必要な事項

3 P D C Aサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	5	5
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	5	5
	協働の役割分担は適切だった	5	5
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	事業実施は円滑になされた	5	5
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	5	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	5	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

広報おうめでの参加者募集において、青梅市高齢者支援課の名前がでることで、安心して応募され、毎回、定員を超える申し込みがあります。パソコンとスマホを多くの方に、教えることができました。参加者の募集および人数の確定までを実施いただくことで、テキスト内容や進め方の見直しや改善に専念することができ、質の高い内容を皆様に届けることができております。皆さん満足されてお帰りになって、青梅市との協働事業を継続してよかったと感じております。

【青梅市側】

協働で行うことで、市と協働団体の役割分担をすることができ事業が円滑に進んだ。また、参加者からは「よく分かった」等の意見もあり、デジタルデバйд解消につながったと考えられる。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

パソコンボランティア青梅の会員がサポーターをしております。会員の高齢化することによりサポーターとして参加ができなくなっております。このため12名の定員が限界となっています。サポーターが減少すると12名の定員も減らす必要がでてきます。定員を維持し、さらに定員数を増やすことができるようにするため、会員を増やしサポーターの育成に努めてゆきたいと思います。

【青梅市側】

教室の中で電子申請サービスの活用方法について等取り入れることで、さらなるデジタルデバйд解消につながるよう協働団体と教室内容の見直しを行っていきたい。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	認知症サポーター養成研修事業	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	認知症キャラバンメイト		
担当課・係	高齢者支援課 包括支援係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	認知症にやさしいまちづくりのため、ボランティアとして講師をしていただける認知症キャラバンメイトと協働し、市民や企業等団体などを対象に認知症サポーター養成講座を開催する。
(3) 実施内容	認知症サポーター養成研修を開催 年間22回開催500人受講

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	全国認知症キャラバンメイト連絡協議会の枠組みのため
(3) 役割分担	【協働団体側】 認知症サポーター養成講座の講師を担当 【青梅市側】 認知症サポーター養成講座の主催や開催希望団体への講師手配、テキスト等の調整

3 P D C Aサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	3	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	3	4
	協働の役割分担は適切だった	3	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	3
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	3	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

市との協働事業とすることで、教科書や市の情報がスムーズに得ることが出来、また、教科書の内容の変更などの情報を得ることが出来た。青梅市も認知症ケア推進委員を設置していただいているところと、この認知症施策に関しても地域包括支援センターがキーとなるものであると思う。認知症基本法も施行された中で一般市民にも興味のある内容であり、今後も市と協働で進めていくことでより広い方にも有益な情報を伝えることができるのではないかと思います。

【青梅市側】

幅広い団体に対し、市役所の営業時間によらず柔軟に頻回にわたり講座の実施をすることができた。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

認知症サポーター養成講座がどこでどのようにおこなわれているのかといった情報を知ることが出来ればより良いと思います。またキャラバンメイトがどのような方がいるかといったものを知ることやどのような伝え方をしているか？といった情報交換の場があったり、内容の変更があったときに勉強会を開くなどの取り組みも必要だと考える。認知症サポーターは何もしないというところではあるものの、講座を受けた方が具体的にどう取り組むかなどの勉強会（ステップアップ講座）の必要性も感じている

【青梅市側】

積極的で特定のキャラバンメイトのみに負担が集中している。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	青梅市高齢者虐待防止ネットワーク連絡会	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	人権擁護委員の代表		
担当課・係	高齢者支援課 包括支援係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	高齢者虐待の防止、養護者による高齢者虐待を受けた高齢者の保護および養護者に対する支援を行うために、青梅市における関係機関、民間団体等との連携協力体制を整備すること。
(3) 実施内容	青梅市役所にて連絡会を年二回開催し、ネットワーク連携体制の強化を図った。（令和6年8月7日、令和7年2月5日）

2 協働の内容

(1) 協働の形態	政策立案・事業企画（各種審議会・委員会で団体等から提案や意見を求める方法・団体等構成員が各種審議会に委員として参加すること。）
(2) 協働の理由・きっかけ	青梅市高齢者虐待防止ネットワーク連絡会設置要綱にもとづき委員会を設置し、委員との意見交換、協議をおこなっている。
(3) 役割分担	【協働団体側】 委員の所属している立場から、連携強化のための意見・協議。 【青梅市側】 委員会の事務局、取り組み状況の報告、連携強化に向けた協議の場づくり。

3 P D C Aサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	5
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	5
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

地域包括支援センター等から高齢者虐待の状況について報告があり、全体で情報共有を図ることができた。

【青梅市側】

高齢者虐待の防止や早期発見、虐待を受けた高齢者や養護者に対する適切な支援を行うために、関係機関や民間団体との連携協力体制構築を目指す中、地域における高齢者虐待対応に理解・協力をいただく場になっておりたいへん有意義である。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

高齢者虐待防止のために事業所向けの動画配信やアンケート、市民に向けた啓発活動等は実施されている。しかし、地域包括支援センターが把握（報告）しているような虐待が起きている・起こりそうな困窮家庭に踏み込んだ検討がなされているとは言えないように思われる。

【青梅市側】

より有意義な連絡会とするための協議テーマの選定、会議の運営、実践に取り組んでいく必要がある。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	初級および上級手話講習会	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	青梅市聴覚障害者協会		
担当課・係	障がい者福祉課 サービス給付係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	(1) 一般市民に「聴覚障害者」の理解と啓発を促し、聴覚障害者の社会参加促進に寄与すること (2) 日常会話の技術を習得し、ろうあ運動の歴史および聴覚障害者の活動について学ぶこと (3) 手話を学ぶことによって、福祉に対する関心を高め、地域福祉を推進すること
(3) 実施内容	福祉センター集会室にて講習会を令和6年5月から令和7年1月までの間に年30回開催

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業委託（市と団体等との間で契約を締結し、委託して事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	青梅市聴覚障害者協会の事業として従前より実施されていたが、同団体より協力依頼があったため
(3) 役割分担	【協働団体側】 実施計画の作成および主催 【青梅市側】 会場確保、広報・周知、参加者募集・受付、運営費助成

3 P D C A サイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	5	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	5	4
	協働の役割分担は適切だった	5	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	事業実施は円滑になされた	5	5
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	5
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果
【協働団体側】 障害者差別解消法の施行に伴い、より多くの市民に手話を学んで貰い、聴覚障害者への理解を広めるために「手話は言語」であることを理解していただき嬉しく思います。事業のお陰で手話講習会会場の予約手続き等を行っていただきスムーズに行うことが出来たことを感謝しております。2025年11月デフリンピック東京大会、高齢者進む中で手話通訳者減少していく現状なので若手手話通訳者育成する必要があります。更に今後も聴覚障害者の社会参加促進のために手話講習会を継続していきたいです。 【青梅市側】 聴覚障害者団体が主催することで、手話を学びたい一般市民と手話を必要とする聴覚障害当事者が直接交流することができ、事業目的を達成する上で大変効果的である。
(2) 今後の課題および改善事項など
【協働団体側】 令和6年度初級講習会及び上級手話講習会を実施出来たことに感謝申し上げます。更に聴覚障害者とのコミュニケーションを深めること目的として行っていきます。また、手話通訳者も育てていく必要がありますので、事業のご協力・ご対応をよろしくお願いいたします。 【青梅市側】 手話通訳者の人材が不足していることから、当事業を通して一般市民の手話技術向上の機会を広げ、手話通訳者の養成につなげることが課題である。初級、中級、上級と途切れなくステップアップした講習会を実施し継続的な地域福祉の増進を図りたい。

5 事業の様子（写真等）

Empty space for photos and descriptions

協働事業評価シート

事業名称	青梅市障がい者交流バスハイク	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	青梅市障害者団体連合会		
担当課・係	障がい者福祉課 庶務係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	バスハイクを通して障害者やその家族の交流を図る。
(3) 実施内容	大型バス2台を借り上げ、沼田公園の散策および原田農園での食事・果物狩りを実施した。45人の参加（うち、市職員3名）を得た。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	障がい者交流バスハイクの実施にあたっては、見学先の選定および参加の募集について、従前から青梅市障害者団体連合会の協力を得ていたため、協働事業として位置付けた。
(3) 役割分担	【協働団体側】 見学先の選定、行程表（案）の作成、しおりの配布、手話通訳者の選任、（団体）参加者の取りまとめ・集金、当日の運営等 【青梅市側】 バスの借上げ、参加者駐車場の手配、広報おうめへの記事掲載、施設の予約・手配、行程表・申込用紙・参加者名簿・バス座席表・しおりの作成、（個人）参加者の受付・集金、当日の運営・精算業務等

3 P D C A サイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	5
	協働の役割分担は適切だった	3	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	5	5
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	5	5
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	5	5
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果
【協働団体側】 事業参加者等のとりまとめが、各団体で出来た事により、協働面について効果があった。
【青梅市側】 限られた予算の中で、青梅市障害者団体連合会に見学先の選定および行程案を作成いただいたことにより、適切な行先を決めることができた。また、当日の運営にも携わっていただいたことにより、事故等もなく円滑に実施することができた。
(2) 今後の課題および改善事項など
【協働団体側】 各団体にとりまとめを依頼したが、令和7年度からは、障団連の事務局が、参加者等のとりまとめを行ってほしいとの要望があり、参加者のお金の集金について調整を行う予定となっている。
【青梅市側】 ・バス会社の都合もあり、車椅子のまま乗車できる人数が以前よりも減ってしまった。今回は、車椅子から降りて通常の席に乗車いただける方がいたので対応できたが、今後、車椅子参加者が増えた場合のことを考えて、バス会社との一層の調整を行っていく。 ・協働団体の要望をそのまま行先にしてしまったが、天候のことをあまり考慮していなかった。今後は、天候に左右されない場所を選定するか、悪天候時のプランも並行して考えるようにする必要がある。

5 事業の様子（写真等）

Empty space for photos or descriptions of the activity
--

協働事業評価シート

事業名称	第52回おうめ健康まつり	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	青梅市三師会		
担当課・係	健康課 健康推進係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	市民の疾病予防、公衆衛生に関する啓もう宣伝、保健衛生知識の普及向上等を図ることを目的とする。
(3) 実施内容	6月2日に青梅市役所1階正面玄関前ロータリーおよび2階会議室等で、歯磨き指導、地場野菜の即売、各種相談、生活習慣病の予防、ヘルスチェック、体組成測定、梅っこ体操講習会等を実施するとともに、元東京歯科大学スポーツ歯科学研究室主任教授の石上恵一氏を講師に招き「しっかり噛めるとカラダが目覚める！」と題して講演を行った。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	市と三師会理事会との協議による。
(3) 役割分担	【協働団体側】 イベントブースにおける事業実施および会計。 【青梅市側】 イベント全体の運営、準備。

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	5	5
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	5	5
	協働の役割分担は適切だった	5	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	5	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	事業実施は円滑になされた	5	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	5	5
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	5	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

- 1 準備段階における協議を通じて、専門性の異なる職種との交流が高評価に値すると思われた。
- 2 市の職員の皆様の助力に感謝しております。

【青梅市側】

市だけでは為し得ない高度な保健衛生分野の啓発が可能となった。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

歴史のある恒例行事であり、様々な工夫をこらして「健康まつり」の意義を深めていきたいと考えます。

【青梅市側】

歴史あるイベントである反面、漫然と続けるだけで市民の疾病予防、公衆衛生に関する啓発ができていくかどうかは疑問がある。
協働団体への補助金額が維持される中で、繰越金が増えているような現状もあり、財政状況に照らした事業整理の上では、継続性に疑義がある。

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート

事業名称	青梅市ファミリー・サポート・センター事業	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	NPO法人青梅ファミリーサポートはあと		
担当課・係	子育て応援課 子育て推進係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	子育て家庭の援助および地域の支え合いによる子育て機能の充実を図る。
(3) 実施内容	子育ての支援を求める者（利用会員）と子育ての支援をする者（提供会員）による会員制の有償ボランティア活動。東青梅センタービルにNPO法人への委託方式で事務局を設け、会員の募集、講習、コーディネートを行う。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業委託（市と団体等との間で契約を締結し、委託して事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	子育て支援政策として、運営等実績のあるNPO法人との協働が望ましいと考えたため。
(3) 役割分担	【協働団体側】 事務局としての運営管理および会員間のコーディネート、相互援助活動および有償ボランティア活動としての事業実施 【青梅市側】 広報活動（広報おうめへの掲載、LINEなどのSNS発信）、会場場所の予約

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	5	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	5	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	5	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	3	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

養成講座のチラシ配布やポスター、青梅市広報、LINEでの呼びかけなどにより提供会員が13名増加した。

【青梅市側】

事業実施により、子育て家庭への支援の充実が図られた。また、事業実施実績のあるNPO法人に事業委託することによりスムーズな運営ができた。提供・利用会員への対応でも大きなトラブルなどなく事業が遂行された。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

提供会員の人数はまだまだ足りているとは言えず、今後もチラシやポスターを配布する箇所を増やすなど、ファミサポの周知に努めたい。17年前から変わっていない謝金についても考えたい。

【青梅市側】

子育て家庭の支援の充実を図るために、利用会員の増加に向けた周知方法について検討したい。
また、提供会員についても、新規会員の加入をすすめ、事業継続に問題が生じないようにしたい。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	あつまれ！0・1・2・3ちびっこ☆ランド	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	特定非営利活動法人青梅こども未来		
担当課・係	子育て応援課 子育て推進係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	①子育て支援に関するイベントを通して、子どもの成長とともに喜び、こそだえのヒントを同じ場で共に学ぶことで、保護者同士の交流と情報共有・親育ちの場とする。 ②講師から、子どもの知性や感性を育む関わり方を体験的に学ぶ。 ③同じプログラムに参加している自分たち以外の親子の様子を見たり、声を聞いたりする中で、自分たちの子育てについて考える。
(3) 実施内容	講師を招き、子どもも大人もともに楽しめるプログラムを実施する。 令和6年度は、小さな子どもたちが、大人の膝の上でお話を聞いたり歌ったり、少し離れて遊んだり、親子で楽しむワークショップ。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業委託（市と団体等との間で契約を締結し、委託して事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	団体からの提案。
(3) 役割分担	【協働団体側】 事業の企画、講師の手配 【青梅市側】 広報活動、申し込み受付、会場準備

3 P D C Aサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	5	5
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	5	5
	協働の役割分担は適切だった	5	5
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	事業実施は円滑になされた	5	5
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	5	5
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	5	5
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	5
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

- ・かなり早い段階で、行政によって会場確保ができたことと、NPO法人による事業の目的に最適な講師を依頼できたことで、事前準備・周知活動等が入念にできた。
- ・市内に広く配布される「広報おうめ」への掲載により、多くの方々に事業の周知ができ、対象児とその保護者だけでなく、ご家族一緒に参加してもらえた。
- ・法人が受託運営しているひろばに遊びに来た親子や、事業に参加中の親子に直接声をかけることができた。

【青梅市側】

子育て関連の専門性の高い講師を手配することができた。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

- ・事業の形態として「参加型」と「鑑賞型」をほぼ隔年で実施しており、アンケート結果からも概ね高評価を得ていることがわかる。今後も、対象年齢の親子の希望をできるだけ取り入れながら、講師や会場の選定ができればいいと思う。ただし、対象児の年齢に幅がありすぎるので、皆が安全に楽しむにはどのような内容にすればいいのかを、事前にしっかり相談する必要がある。

【青梅市側】

周知や申し込み方法に改善の余地がある。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	外遊び型子育てひろば はらっぱ	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	特定非営利活動法人かぶかぶ山のようにえん		
担当課・係	子育て応援課 子育て推進係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	乳幼児期までの子どもと保護者、妊婦とその家族を対象に、「自然が豊かであたたかいつながりのあるふるさと青梅に生まれて良かった」と思えるような、青梅市ならではの自然を生かした子どもの健全育成の場、子育て家庭と地域のつながりのばを作り、子育て世代を支援すること。
(3) 実施内容	わかぐさ公園等を使用し、スタッフおよび講師を配置し、親子の外遊びを応援しサポートする。 令和6年4月から令和7年3月の間に年25回実施

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業委託（市と団体等との間で契約を締結し、委託して事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	令和6年度「あおしんTASUKI寄付金」の趣旨に鑑み、子育て支援にかかる課題を解決するための事業実施について、青梅市子ども関連NPO団体連絡協議会からの提案を受け、市民協働事業都して実施した。
(3) 役割分担	【協働団体側】 事業の企画・運営・実施、アンケートの実施および集計 【青梅市側】 事業企画のサポート、広報活動

3 P D C Aサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	5	5
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	5
	協働の役割分担は適切だった	5	5
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	事業実施は円滑になされた	5	5
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	5	5
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	5	5
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	5
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果
【協働団体側】 1：協働事業の継続による、市民への認知拡大。チラシの市内施設における掲示・配布場所の改善、市広報や市LINEでの定期的な発信、乳幼児検診での配布開始などもあり、前年度597名、当年度695名と100名以上参加者が増加しました。2：乳幼児に向けた子育て支援のアウトリーチ活動の実施。開催場所の公園内で、対象年齢とみられる親子に当事業や市の子育て支援に関する声掛けを行い、情報提供や周知を図ることができました。3：高校生ボランティアの参加による多世代での交流がありました。
【青梅市側】 開催日ごとに、NPO法人に所属する臨床心理士や助産師さんを配置することで、子育て世代の悩みに真摯に対応することができた。
(2) 今後の課題および改善事項など
【協働団体側】 1：民生児童委員／自治会／寺社との協働 市内他地域での実施が課題です。自治会館や寺社境内で開催することで、より多くの方の居場所となれるのではと考えております。2：認知拡大 アウトリーチ活動を行う中で、当事業や市の子育て支援策についての情報を把握していない子育て当事者が多数みられました。3：公園内で営業活動されている市内企業への協賛依頼 市内企業による参加者を対象にしたセールス活動があるため、働きかけをお願いできましたら幸いです。ヤクルト、第一生命、明治安田生命
【青梅市側】 周知不足が課題と考える。

5 事業の様子（写真等）

Empty space for photos and descriptions

協働事業評価シート

事業名称	子どもふれあいフェスタ2024	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	青梅市子ども関連NPO団体連絡協議会		
担当課・係	子育て応援課 子育て推進係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	①児童の健全育成、②子育て支援、③多世代交流 ・子供が主役となり、みんなで作り上げる ・多世代交流や参加者どうしのつながりが生まれる場の創出 ・青梅で育ってよかった、子育てしてよかったと感じられる体験につながる ・市内の子ども関連NPO等団体のネットワークがより豊かになる取り組み
(3) 実施内容	令和7年1月19日（日） 午前10時30分～午後3時30分 福祉センター1、2階 ①あそびコーナー・模擬店コーナー ②親子交流コーナー ③多世代交流コーナー

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業協力（市と団体等との間で協定により一定期間、継続的に事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	団体からの提案。
(3) 役割分担	【協働団体側】 市内NPO法人を中心に実行委員会形式にて企画・運営 【青梅市側】 補助金の交付とともに、企画段階からオブザーバーとして実行委員会に参加

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	5	5
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	5
	協働の役割分担は適切だった	4	5
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	3	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	事業実施は円滑になされた	5	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	5	5
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	5
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	5
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

開催場所の関係課との連絡を密に取った。市内小学校・中学校などへのチラシ配布手配、周知等をスムーズに行うことができた。

【青梅市側】

市内NP0の情報量を活用して、円滑に開催することができた。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

今年度は開催まで6回の会議を行ったが、日程調整が難しかった。次回は担当箇所を振り分けて各団体で動き、会議回数を減らすようにする。

【青梅市側】

補助金の逡減により、事業予算の減少にどのように対応するかが課題となる。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	親子の絆づくりプログラム B P 講座	実施年度	令和 6 年度
協働団体の名称	NP0法人青梅こども未来		
担当課・係	子育て応援課 子育て推進係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	子育ての不安や負担感を軽減し、子育て家庭の孤立化を防止するため、子育て家庭への支援や地域で子育てを支える環境づくりを図ることを目的とする。
(3) 実施内容	B P 1「赤ちゃんがきた！」：初めての赤ちゃんを育てている母親を対象に、子育て支援センター「はぐはぐ」や福祉センターにて、1クール4回の講座を年3回開催した。 B P 2「きょうだいが生まれた！」：2人目以降の赤ちゃんを育てている母親を対象に、子育て支援センター「はぐはぐ」や福祉センターにて、1クール5回の講座を年4回開催した。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	B P 講座は、B P ファシリテーター養成講座を受講した認定のB P ファシリテーターが実施する講座のため、B P ファシリテーターのいる団体と協働で実施している。 団体からの提案により開始。
(3) 役割分担	【協働団体側】 講師派遣、受付スタッフ要員、当日の会場準備、広報活動（ポスター、チラシの作成等） 【青梅市側】 広報活動（広報おうめへの掲載、子育てアプリやLINEなどのSNS発信、市内関係各所へのポスター掲示やチラシ配布の依頼）、会場場所の予約、事前申込の受付

3 P D C A サイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	3	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果
【協働団体側】 ・ 青梅市広報やSNS等で広く市民に告知することが出来た。 ・ 健康センターと連携をとり、3,4カ月検診に出向くなどして対象者により効果的な働きかけが出来た。
【青梅市側】 本事業の実績のある団体と協働で実施することで、質の高い講座を提供でき、参加者にとって有意義である。
(2) 今後の課題および改善事項など
【協働団体側】 ・ 行政の各部署の枠を越えて、「母子手帳配布の際に働きかける、3,4カ月検診の際保健師から直接対象者に声掛けしてもらう」など、更に踏み込んで対象者に繰り返し声掛けするシステムの構築が必要だと感じる。
【青梅市側】 広報やSNS発信等、広く周知したが、まだ定員に余裕があるため、さらなる周知方法について検討が必要。 乳児3・4カ月健診時に、保健師から直接対象者に声かけしてもらう等、こども家庭センターと連携していくことも検討したい。

5 事業の様子（写真等）

Empty space for photos and descriptions

協働事業評価シート

事業名称	青梅市親子ふれあい事業ボッチャ大会	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	青梅市青少年対策地区委員長連絡協議会、各地区委員会（11地区）		
担当課・係	子育て応援課 児童・青少年係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	青少年自身が地域活動に参加する機会や場を提供するとともに、大会に親子等グループで参加することで、ふれあい、異年齢交流や地域交流を図りながら、地域社会全体で青少年の健全育成を図ることを目的としている。
(3) 実施内容	令和7年2月2日（日）に開催。市内在住の小中学生・保護者、市内在住・在勤在学の一般市民および大会役員等、66チームが参加。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業委託（市と団体等との間で契約を締結し、委託して事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	平成9年頃から青梅市青少年対策地区委員長連絡協議会において、市全体の統一事業として開催することについて検討が始められ、平成15年1月19日に「第1回大会」が開催された。
(3) 役割分担	【協働団体側】 実行委員会を組織し、大会実施のための準備をすること。大会前日準備や当日の運営をすること。 【青梅市側】 事務局として大会の周知、出場チーム募集等の広報、実行委員会の準備を行うとともに、大会に必要な物品を調達すること。

3 P D C A サイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	5	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	5	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	5	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

例年、行政側が実行委員会事務局を担当することで、市の広報媒体を活用したチーム募集や開催情報の公表、実行委員会の開催、当日の大会運営等が円滑に行われている。

【青梅市側】

大会前日の会場設営や当日の選手・参加者の整理誘導、試合進行について役員や実行委員と協力し、円滑に大会運営を行うことができた。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

細かい反省点はあるが、大きな改善事項は特に無い。

【青梅市側】

細かい修正点が意見として出ているため、次年度開催に活かしたい。

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート

事業名称	吹上しょうぶ公園ガイドボランティア事業	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	吹上しょうぶ公園ガイドボランティア		
担当課・係	シティプロモーション課 観光係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	来園者へのサービス向上を図る
(3) 実施内容	吹上花しょうぶまつりでの来園者へのガイド

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業協力（市と団体等との間で協定により一定期間、継続的に事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	来園者へのサービス向上を図る
(3) 役割分担	【協働団体側】 ガイドの実施 【青梅市側】 講習会の開催、消耗品の購入、日程調整、会議の開催

3 P D C Aサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	3
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	5	3
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	事業実施は円滑になされた	4	5
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	5
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

ガイドボランティアの活動自体はまったく不満なく、毎年楽しく不自由なくやらせていただいていますし、これからもできるだけ続けさせていただきたいと思っています。
ただ、今回、こうして改めて聞かれると、今までは良い場所と機会を提供していただいているという理解で、協働というより束縛のない委託？というイメージだったかもと考えました。今さらですが、市の目的や目標がどこにあって、どこまで達成されているか、きれいなハナショウブを訪れる方々に楽しんでもらいたいと思いますが、聞いていたかもしれません、すみません。
改善、気づきノートで改善や取り組みが理解できました。午前午後の配分はとても良かったです。ボランティアガイドのレベルアップの講習会はとても良かったです。ただ講師の高度な知識ゆえ消化できないことがあったと思います。

【青梅市側】

ガイドさんがお祭り期間中にいることで、園内の花しょうぶを満遍なくお客様にお伝えすることができ、何か花しょうぶのご質問があった際も、円滑にお答えが可能となり、より花しょうぶを、ついでには吹上しょうぶ公園を知ってもらえた。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

昨年の振り返り会は日程が合わず参加できませんでした。そのため前もって、改善点、気づいた点のレポートをお送りしたのですが、残念ながらそれに対する応答もまた会議の議事録もいただけませんでした。出られなかった自分の問題と思いましたが、協働というのでしたら、なおさら議事録は送っていただきたかったと思います。もう1点、市の職員の方々は3～4年で部署が変わられるのでしょうか？お互い知り合って連携を取れそうとなるといなくなるような気がして残念です。
観光戦略の一つとして、スタンプラリーとか、クイズで随所に見られて良かったです。俳句の募集も復活してほしいとの来客のご意見もありました。木道のこけ、滑り止めマットなどすぐに対応されて、安全第一で良かったと感じています。天候にもよりますが、伊勢系の圃場が増えるといいですね。

【青梅市側】

ガイドさんもお祭りの開催状況を把握しつつ、花の紹介をお客様に紹介することができたと感じる。コロナのような異例の際に、しっかりとしたマニュアルを行政側から、迅速に今後も提示できるよう心掛ける必要がある。

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート

事業名称	梅の公園ガイドボランティア事業	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	梅の公園ガイドボランティア		
担当課・係	シティプロモーション課 観光係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	来園者へのサービス向上
(3) 実施内容	公園内の梅その他の植物、施設等の案内および説明

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業協力（市と団体等との間で協定により一定期間、継続的に事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	梅の公園来場者へのサービス向上
(3) 役割分担	【協働団体側】 ガイドの実施 【青梅市側】 講習会の開催、消耗品の購入、日程調整、会議の開催

3 P D C Aサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	3	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	5	4
	協働の役割分担は適切だった	5	5
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	事業実施は円滑になされた	5	5
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	5	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	5	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

事前の講習会では専門家の解説により、公園の自然環境への理解が深まった。ボランティア同士の意見交換では、過去の状況や地域情報を共有でき、ガイドの質向上につながった。ウィルスから再生中の梅の木について来園者に説明した際には応援の言葉をいただき、地域と協力して公園を育てる意義を実感した。

【青梅市側】

市民の方がボランティアでガイドを行い、青梅市の梅郷地域や梅の公園等について来場者に興味を持ってもらうことができた。当該活動により再来園への動機を促せるよう効果的なアピールの一つとなることを期待したい。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

現在再生中の梅の木に加え、他の動植物も含めた広い視点での保全体制が整うと、より多様な自然環境の魅力を伝えられると感じた。また、来園者の安全確保の観点から、万が一の怪我や事故に備え、ボランティアと行政職員との連携体制をより明確にしておくことが今後の課題と考える。

【青梅市側】

講習開催の方法等を変更したが、まだ課題はあるかもしれない。また、ガイド自体のニーズや在り方、存在意義についても検討する余地はある。（音声ガイドやQRコードによるガイド等々にする）

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート

事業名称	青梅市森林ボランティア育成講座	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	NP0法人青梅林業研究グループ		
担当課・係	農林水産課 林務水産係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	将来青梅市内森林の整備に対するボランティア活動に必要な森林施業の知識と技術を参加者に習得してもらうこと
(3) 実施内容	年10回講座を開催。青梅市内の森林（主な作業場所は青梅の森）で下草刈り、枝打ち、除伐、間伐、植林等の作業を実施。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業委託（市と団体等との間で契約を締結し、委託して事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	「青梅市における市民活動団体等との協働事業に関する指針」にもとづき、協働開催している。
(3) 役割分担	【協働団体側】 開催場所の選定、講座内容の計画、技術的指導 【青梅市側】 講座開催の事務局、参加者の意見集約、今後の取り組みの検討

3 P D C A サイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	3	3
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	3	3
	協働の役割分担は適切だった	3	3
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	2	3
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	1	3
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果
【協働団体側】 ・受講生の募集段階において行政が保有する広報手段が効果的に活用されたことにより、森林保全活動に対する高い意識を有する市民を当講座に誘導できたと思う。 ・例年利用のトイレなどが改修工事により利用できない中での開催となったが、昼休みのトイレ送迎など力強い支援があった。
【青梅市側】 事前に、年間計画等をたて、安全対策を行ったうえで、講座を開催することが出来た。協働団体に所属する、林業従事者の専門的な意見を講座に反映できることにより、充実した講座内容となった。
(2) 今後の課題および改善事項など
【協働団体側】 ・協働を前提とした講座の開催目的や双方の果たすべき役割について事前の意識合わせが不足しており、双方の果たすべき役割や、講座内容の調整などが不十分であった。受講生からのアンケートや講座を通じて認識した要望や課題などを素直にぶつけ合い、よりよい講座のあり方について双方が真摯に検討する場の創生が必要であると思う。
【青梅市側】 講座修了者が、森の担い手として活動しやすい環境の醸成が必要であり、既存の森林ボランティア団体のほか、活動意欲のある人々の支援体制の有り方を検討する。

5 事業の様子（写真等）

Empty space for photos and descriptions

協働事業評価シート

事業名称	青梅市住宅なんでも相談会	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	青梅市住宅施策推進協議会※と司法書士会、行政書士会（※民間の不動産事業者や建築士等の協会で構成される任意団体）		
担当課・係	住宅課 住宅政策係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	市民の安全で安心できる快適な住まいづくりのために、空家の相続、空家の相談、住宅の新築、増改築、リフォーム、売買、賃貸等およびマンションの修繕、維持管理等に関する相談について適切な助言を行うとともに、住宅に関する市民相談窓口の構築に資することを目的とする。
(3) 実施内容	青梅市役所にて10月に相談会の実施

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業協力（市と団体等との間で協定により一定期間、継続的に事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	青梅市住宅マスタープランにおいて、住宅に関する相談体制の整備が掲げられており、相談会を開催するにあたり、相談員をお願いすることとなった。
(3) 役割分担	【協働団体側】 相談会当日の相談員 【青梅市側】 市民への周知、広報活動、会場の確保・設営、申込受付、相談会当日の受付、結果の取りまとめ

3 P D C A サイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

相談者に対して適切な解答やアドバイスを行うとともに、各協会のPRに繋がった。

【青梅市側】

住宅に関する相談窓口を開始することにより、相談者の悩みを解消することができた。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

青梅市住宅施策推進協議会所属の相談員のほか、司法書士会、行政書士会にも協力を得て、空家の相談問題等、専門的な相談にも対応することができた。相談者も喜んでいただけたので、引き続き問題解決の一助となれるよう対応したい。

【青梅市側】

さらに相談者を増やすための効果的な周知方法を検討する。
特に、継続空家の所有者など相談会に参加して欲しいターゲットに対し、相談会を利用していただく効果的なPR方法を検討し、実行に移す必要がある。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	青梅市住宅定例住宅相談会	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	青梅市住宅施策推進協議会※と司法書士会、行政書士会（※民間の不動産事業者や建築士等の協会で構成される任意団体）		
担当課・係	住宅課 住宅政策係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	市民の安全で安心できる快適な住まいづくりのために、空家の相続、空家の相談、住宅の新築、増改築、リフォーム、売買、賃貸等およびマンションの修繕、維持管理等に関する相談について適切な助言を行うとともに、住宅に関する市民相談窓口の構築に資することを目的とする。
(3) 実施内容	青梅市役所にて10月を除く原則毎月第3木曜日に実施

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	青梅市住宅マスタープランにおいて、住宅に関する相談体制の整備が掲げられており、相談会を開催するにあたり、相談員をお願いすることとなった。
(3) 役割分担	【協働団体側】 相談会当日の相談員 【青梅市側】 市民への周知、広報活動、会場の確保・設営、申込受付、相談会当日の受付、結果の取りまとめ

3 P D C A サイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

相談者に対して適切な解答やアドバイスを行うとともに、各協会のPRに繋がった。

【青梅市側】

住宅に関する相談窓口を開始することにより、相談者の悩みを解消することができた。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

青梅市住宅施策推進協議会所属の相談員のほか、司法書士会、行政書士会にも協力を得て、空家の相談問題等、専門的な相談にも対応することができた。相談者も喜んでいただけたので、引き続き問題解決の一助となれるよう対応したい。

【青梅市側】

さらに相談者を増やすための効果的な周知方法を検討する。
特に継続空家の所有者など相談会に参加して欲しいターゲットに対し、相談会を利用していただく効果的なPR方法を検討し、実行に移す必要がある。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	学校教育ボランティア	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	学校教育ボランティア		
担当課・係	指導室 指導係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	青梅市立小・中学校の教育活動を継続的に支援できる個人または団体を青梅市教育ボランティアとして登録し、地域の教育力として活用することにより、学校教育の充実および活性化を図ることを目的とする。
(3) 実施内容	学習活動への支援、生活指導への支援、交流・体験活動への支援、クラブ活動への支援、学校図書館における整備等の支援、学校行事への支援、特別な教育的支援を要する児童・生徒への支援、その他、学校が必要とする活動への支援

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業協力（市と団体等との間で協定により一定期間、継続的に事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	青梅市教育ボランティア制度実施要綱にもとづき各学校が募集、登録
(3) 役割分担	【協働団体側】 学校の依頼にもとづく支援 【青梅市側】 学校への活用奨励

3 P D C A サイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	5
	協働の役割分担は適切だった	4	5
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	5	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	事業実施は円滑になされた	4	5
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	5
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	5
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

図書ボランティアにおいて、朝の読み聞かせを定期的実施できた。実施日の朝は、普段より落ち着いて一日をスタートできたり、本を手にする児童もいたりし、本への関心を高めている。
実施後ボランティアの方同士で情報交換や次への打合せを行っていることで、大人も交流が生まれている。

【青梅市側】

地域人材を活用することにより、各学校の特色を生かした教育活動の充実を図ることができた。
図書室整理・学習支援・安全パトロールなどで、なくてはならない存在となっている。（登録 18 4人）
地域・保護者の観点から、よりよい教育活動充実のための意見交換ができています。
教員だけでは補うことができない点に支援を受けることで、教員の負担軽減に繋がっている。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

図書ボランティアの方をプリントやホームページで常時募集しているが、朝の忙しい時間帯ということもあり、なかなか新規の応募者がいないため、現在行っている方々への負担もあると思われる。学年合同でいう場合もある。

【青梅市側】

人材の十分な確保、広報活動。
ボランティア人材の発掘。
学校によって活用実績・活用人数に差がある。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	生涯学習フェスティバル～釜の淵新緑祭2024～	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	青梅市生涯学習推進市民会議、各出演団体、学生ボランティア		
担当課・係	社会教育課 生涯学習推進係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	各種団体・サークル活動の発表場所の提供、体験イベントによる学習機会の提供、および生涯学習事業の周知
(3) 実施内容	出演団体・サークルによる各種ダンス、合唱、楽器演奏、お話会、体験イベント、市内の団体・企業による飲食物販売。 来場者・参加者 3,307人

2 協働の内容

(1) 協働の形態	政策立案・事業企画（各種審議会・委員会で団体等から提案や意見を求める方法・団体等構成員が各種審議会に委員として参加すること。）
(2) 協働の理由・きっかけ	青梅市生涯学習推進市民会議に事務局として。
(3) 役割分担	【協働団体側】 企画運営 【青梅市側】 事務局

3 P D C A サイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	3	3
	協働の役割分担は適切だった	3	3
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	3	3
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

釜の淵公園とS&Dたまぐーセンターの2会場を使用して開催することができた。
出演者だけでなく運営に携わった者も皆で盛り上げ楽しむことができた。

【青梅市側】

新緑祭全体の準備や片付け、開催中の係にも各団体の実行委員に協力してもらい、協働を推進することができた。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

事前の説明だけでは実行委員やボランティアの学生には伝わりづらいという声があった。役割と人員配置を明確にしていきたい。

【青梅市側】

来年度も引き続き実行委員会の運営やイベント当日運営についてももさらに市民が主体的に実行できるようにサポートしていきたい。

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート

事業名称	パパママカレッジ～家庭教育講演会～	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	NPO法人青梅こども未来		
担当課・係	社会教育課 生涯学習推進係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	家庭教育の充実を図る。
(3) 実施内容	計3回の講演会を実施した。 ①イライラしても大丈夫！アンガーマネジメントでイキイキ子育て（市役所会議室・オンライン配信） ②発達障害の子とハッピーに暮らすヒント（市役所会議室・オンライン配信） ③多様性とジェンダー平等を基盤にした包括的性教育～“子どもの権利”“からだの権利”を実現する乳幼児期からの学び～（市役所会議室・オンライン配信）

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	子育て現場の声を反映した講演会とするため。
(3) 役割分担	【協働団体側】 講師選定、企画、広報、託児、当日運営 【青梅市側】 講師選定、講師交渉、企画、広報、申請受付、当日運営。

3 PDCAサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	5	5
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	5	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	事業実施は円滑になされた	5	5
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	5	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

- ・ 情報過多の中、協働により、参加者や講演者も講演を選ぶ指針となった
- ・ 青梅こども未来の各種事業の利用者・参加者にチラシを配布したり直接お知らせしたりすることができた。
- ・ 子育て中の保護者の要望(青梅こども未来の子育て中のスタッフの意見を取り入れるなど)に応えるテーマを取り上げることが出来た。
- ・ 協働によりオンラインでの配信等もより多くの人に届けられるようになった。

【青梅市側】

青梅こども未来のスタッフや利用者を通じて子育てに関する意見を聞き取り、ニーズに答えられるような内容で開催することができた。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

- ・ 今後も現役子育て世代が「聞きたい・参加したい」と思えるテーマのリサーチを双方で行い、それに基づいた企画をしてなるべく多くの子育て中の保護者が参加しやすい講演会を目指したい。

【青梅市側】

今後も子育てに関するさまざまなニーズに答えられるような内容とするため双方で話し合い講師を選定していきたい。またより多くの保護者に届くよう、可能であればアーカイブ配信も行っていきたい。

5 事業の様子（写真等）



協働事業評価シート

事業名称	この指とまれ！朗読会	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	「リーダーズあおうめ」		
担当課・係	社会教育課 図書館管理係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	朗読会の開催により読書や朗読への関心を高めていただくことによる図書館の利用の促進と、市民団体と行政が協働することにより、市民に開かれ、親しまれる図書館の実現を図ることを目的とする。
(3) 実施内容	朗読グループ「リーダーズあおうめ」と中央図書館が共催で、年齢、性別を問わず、朗読に興味のある方を募集し、朗読の発表の場の提供を行い、朗読会を開催する。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	リーダーズあおうめによる朗読会は、以前より行われていたが、朗読に興味のある方を募集し、朗読の発表の場を提供し、朗読会を開催するなど、図書館の設置目的と合致することから、共催で実施することとした。
(3) 役割分担	【協働団体側】 企画立案、広報、応募者の取りまとめ、朗読会の開催運営 【青梅市側】 企画立案、広報、会場提供、朗読会の開催支援

3 P D C A サイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	3	3
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

会場設営などを分担していただき、効率的な運営が図られた。

【青梅市側】

朗読会の開催により読書や朗読への関心を高めていただくことによる図書館の利用の促進と、市民団体と行政が協働することにより、市民に開かれ、親しまれる図書館の実現を推進することができた。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

朗読を発表した参加者や行政と、事業実施後に課題や改善点についてもう少し話し合う機会、反省会を設けたい。

【青梅市側】

この活動は、図書館の設置目的の推進に有用であるため、市民と行政が連携することによって、より参加者が楽しく参加できるイベントへと発展させていく。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	中央図書館整架ボランティア	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	図書館整架ボランティア登録者		
担当課・係	社会教育課 図書館管理係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	市民と行政が協働し、市民に開かれ、親しまれる図書館の実現を図ることを目的とする。
(3) 実施内容	整架ボランティアにより、中央図書館の書架の整理を行っている。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業協力（市と団体等との間で協定により一定期間、継続的に事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	図書館の仕事や地域社会への貢献に興味のあるボランティアの活動場所の提供
(3) 役割分担	【協働団体側】 図書の整架・清掃 【青梅市側】 ボランティアに対する社会的活動の場の提供

3 P D C Aサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	3	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

図書館事業への参画を通じて、社会貢献を行うとともに、自身の興味や技術を増進することができた。
新規のボランティア登録者により、活動人数が増え、より活動の成果があった。

【青梅市側】

活動を実施したことにより利用者の利便性を高め、市民に開かれ、親しまれる図書館の実現を図れた。また、ボランティアの養成講座を行い、4人の方が新規登録をした。定期的な活動により業務負担の低減にもつながった。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

図書館側と意見交換をすることにより、効率的な作業を行えるようにする。
分館図書館での活動再開を希望。また、ボランティアの新規登録者を引き続き募っていただきたい。

【青梅市側】

ボランティア側の疑問点を積極的に聴取し、ボランティア活動の行いやすい環境を提供する。
さらに、自立的活動ができるようサポートする。（わかりやすいインフォメーション、窓口の明確化等）
分館図書館での活動に関しては、次年度より再開。
次年度も、新規ボランティアの募集を実施する予定となっている。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	おはなしボランティア	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	「青梅おはなしの会」、「おはなしの会 ころりん」、「絵本研究会」		
担当課・係	社会教育課 図書館管理係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	市民と行政が協働し、市民に開かれ、親しまれる図書館の実現を図ることを目的とする。
(3) 実施内容	おはなし会12回（中央）、12回（今井）、3回（梅郷）、2回（新町）、12回（青梅）、絵本の森12回、大人向けおはなし会3回、新緑祭1回、出張おはなし会7校72回、絵本のべんきょう会6回、おはなしにちょうピーナッツ12回、初級おはなし学習会7回、計154回

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業協力（市と団体等との間で協定により一定期間、継続的に事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	図書館の仕事や地域社会への貢献に興味のあるボランティアの活動の場の提供
(3) 役割分担	【協働団体側】 おはなし会、おはなし学習会、絵本のべんきょう会、おはなし学習会への参加、実演 【青梅市側】 おはなし会、おはなし学習会、絵本のべんきょう会、おはなし学習会の開催

3 P D C Aサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	5
	協働の役割分担は適切だった	4	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	3	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	5
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

図書館と協力しておはなし会を実施できた。
学校におけるおはなし会等、おはなしを届ける機会が増えて良かった。

【青梅市側】

多くのボランティアに協力いただき、いろいろな場所でおはなし会が実施できた。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

学校活動に向けて年間計画を年度初めにたてていただきたいです。

【青梅市側】

ボランティア育成の継続
学校とのスケジュール調整（学校出張おはなし会增加によるボランティアへの活動協力依頼増）

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	「本好きたちの読書会」～同じ本を読んでみんなで語り合いましょう～	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	「ペンギンの会」		
担当課・係	社会教育課 図書館管理係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	読書会を開催することで、読書に対する興味関心を持ってもらい、図書館の利用促進を目指す。また、市民団体と協働することにより、市民に開かれ、親しまれる図書館の実現を図る。
(3) 実施内容	「ペンギンの会」と中央図書館が共催で読書会を開催。課題本を読んだ感想を、参加者が自由に話し合い、読書に関する話題を交換した。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	中央図書館におけるティーンズサービスの充実に取り組む中で、図書館ボランティア「ペンギンの会」から中学生以上を対象とした読書会を提案された。
(3) 役割分担	【協働団体側】 企画立案、広報、読書会の開催運営への参加、実演 【青梅市側】 広報、応募者の取りまとめ、会場提供、読書会の開催支援

3 P D C A サイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	5	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	5	5
	協働の役割分担は適切だった	5	5
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	事業実施は円滑になされた	5	5
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	5	5
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	5	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	5	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

中央図書館との協働により、読書会を偶数月とし、課題本も中・高・一般の方が読み応えのあるものを選書し、また広く周知したことで、大勢の方に参加してもらうことができた。それにより、定着した方々が参加してくださるようになった。

【青梅市側】

中高校生を対象とした読書会を開催することで、読書に対する興味関心を持ってもらい、中高校生の図書館の利用促進を促すことができた。
また、市民団体と協働することにより、市民に開かれ、親しまれる図書館の実現を図ることを推進することができた。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

回を重ねごとに参加者が増えてきたので、ボランティア室の中を上手に使用することが、今後の課題となっている。会場を広くするよりも、一人一人がより近くで感想を共有できる雰囲気大切にしながら、中高生を含む多くの参加者に読む楽しさ、語る喜びを味わってもらえる環境にしていきたい。

【青梅市側】

中高校生を対象とした事業を今後も継続して実施することが課題。また、中高生の参加しやすい環境づくりも必要と感じた。
さらに市民団体との協働を図り、中高校生向けの事業を充実させ、中高校生の図書館の利用促進を目指していきたい。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	青梅市吉川英治記念館 秋のライトアップと夜間開館	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	NP0法人青梅吉野梅郷梅の里未来プロジェクト		
担当課・係	文化課 吉川英治記念館担当		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	令和2年9月7日から青梅市の施設として吉川英治記念館を再オープンしたことを、多くの方に知ってもらうため。
(3) 実施内容	開催期間：令和6年11月9日から11月24日まで 吉川英治記念館の開館時間は、午前10時から午後5時までのところ、主屋と庭園をライトアップし午後8時まで夜間開館を実施した。 【期間中来館者】 633名（うち夜間開館来館者144名）

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	行政からの提案
(3) 役割分担	【協働団体側】 ライトアップ会場設営などのコーディネート 【青梅市側】 ライトアップ会場の提供、周知、運営全般

3 P D C Aサイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	5	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	5	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	5	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	事業実施は円滑になされた	4	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果
【協働団体側】 夕刻からのライトアップを行い、日中とは異なる記念館の様子をお楽しみいただくと共に、毎年好評のジャズコンサートも無事開催することができた。また、開催期間中は寒い時間帯の入場者数に伸び悩みがあったが、市公式のLINEによる周知により、来館者の増加効果もあった。
【青梅市側】 吉川英治記念館を知ってもらい、多くの方に訪れてもらうことができた。
(2) 今後の課題および改善事項など
【協働団体側】 御岳溪谷のライトアップも今回は開催せず、周辺のお店なども閉まる時間帯のため、観光の連動やPRとしては弱い形となった。可能であれば、連携先がもう少し周囲にあればお客様が足を運ばれるきっかけとして着目の機会も上がるのではないかなと思う。
【青梅市側】 多くの方に吉川英治記念館を知ってもらうための取組として今後も継続していきたい。さらに多くの方に吉川英治記念館を訪れてもらうための情報発信など。

5 事業の様子（写真等）

Empty space for photos and descriptions

協働事業評価シート

事業名称	地域連携展示『五月人形展』	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	市民、武州青梅三田弾正手作り甲冑隊		
担当課・係	文化課 吉川英治記念館担当		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	令和2年9月7日から青梅市の施設として吉川英治記念館を再オープンしたことを、多くの方に知ってもらうため。
(3) 実施内容	開催期間：令和6年4月27日から5月19日まで 出品者10組・展示総点数27点（内12点寄贈） ・兜飾、鎧飾、祝太刀、破魔矢飾、甲冑など 【期間中來館者】 499名

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	吉川英治記念館を知ってもらう機会を創出するため。
(3) 役割分担	【協働団体側】 五月人形等の展示協力 【青梅市側】 五月人形等展示、周知、運営全般

3 P D C A サイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	5	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	事業実施は円滑になされた	5	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	5	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

市民の方から寄贈された五月人形を主に展示を行い、五月の節句らしい展示企画を展開した。迫力ある展示空間となった。天候にも恵まれ、大型連休では来館者も昨年度より増加し、来館者に楽しんでもいただく企画となった。

【青梅市側】

吉川英治記念館を知ってもらい、多くの方が訪れてもらうことができた。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

課題としては収蔵品を年に一度設置するため、繰り返される内容となってしまう部分がある。こども対象に新聞紙で兜が作れる工作など、付帯して例年の内容に変化をつける試みなど検討したい。

【青梅市側】

展示スペースに限りがあるため多くの方から提供の申し出あったときの対応や、さらに多くの方に吉川英治記念館を訪れてもらうための情報発信など。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	地域連携展示『ひな人形展』	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	市民		
担当課・係	文化課 吉川英治記念館担当		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	令和2年9月7日から青梅市の施設として吉川英治記念館を再オープンしたことを、多くの方に知ってもらうため。
(3) 実施内容	開催期間：令和7年2月15日から3月20日まで 出品者7組・展示総点数11点（内10点寄贈） ・七段飾り、親王飾りなど 【期間中来館者】 1,242名

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業共催（市と団体等が共同で事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	行政からの提案
(3) 役割分担	【協働団体側】 ひな人形等の展示協力 【青梅市側】 ひな人形等展示、周知、運営全般

3 P D C A サイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	4	4
	協働の役割分担は適切だった	4	4
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	5	4
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	事業実施は円滑になされた	5	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	4	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

例年開催しているひな人形展だが、今回は同時期に別展示も行い、より雛まつりの時期に華やかな展示をおこなうことができた。作品の特性上、年に一度の雛人形を飾り付ける形式ではあるが、今年は配置場所も異なり、例年とは見せ方も変えた。お客様からのご感想も好感触であった。

【青梅市側】

吉川英治記念館を知ってもらい、多くの方が訪れてもらうことができた。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

今年は展示に加え、同時期に開催する事業も飲食の提供など内容を膨らませた。同時期に開催している梅まつりとの連携も含めて、次回も満足度の高い事業の開催を目指したい。

【青梅市側】

展示スペースに限りがあるため、多くの方から提供の申し出あったときの対応。さらに多くの方に吉川英治記念館を訪れてもらうための情報発信など。

5 事業の様子（写真等）

協働事業評価シート

事業名称	第57回青梅マラソン大会	実施年度	令和6年度
協働団体の名称	青梅市陸上競技協会		
担当課・係	スポーツ推進課 スポーツ推進係		

1 事業内容

(1) 事業開始の時期	既存事業（以前から実施している事業）
(2) 事業の目的	①市民のスポーツ実施率の向上 ②参加者の競技力向上と走ることを楽しむ場の提供 ③全国からの参加者同士の親睦、交流およびボランティア等も含めた大会関係者間の地域交流を図る。
(3) 実施内容	○30キロの部 ○10キロの部 ○ジュニアロードレース

2 協働の内容

(1) 協働の形態	事業協力（市と団体等との間で協定により一定期間、継続的に事業を実施）
(2) 協働の理由・きっかけ	参加者、沿道の人出が非常に多い大会であり、よりスムーズな大会運営を行うために、広範囲の人々の協力を求めた。
(3) 役割分担	【協働団体側】 競技運営、観衆を整理するコース整理員や給水係、関係機関との連絡調整、医療救護、通信連絡体制、参加申し込みの受付等 【青梅市側】 道路の占有許可手続きおよび官公庁との連絡調整、コース・会場設営・施設（更衣室、トイレ等）の整備確保、住民の協力要請と周辺対策等

3 P D C A サイクルによる事業評価

		協働団体側	青梅市側
計画 段階 (P)	事前に事業の目的や課題が共有され、役割・責任分担が明確になっていた	4	4
	事業に最もふさわしい協働の形態が選択された	3	4
	協働の役割分担は適切だった	2	3
実施 段階 (D)	対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	協働相手の自主性・自立性は尊重された	2	4
	事業実施は円滑になされた	3	4
事業 終了後 (C・A)	事業の目的が達成された	4	4
	事業が形式化せず、目標達成のための取り組みが適切に実施されていた	2	4
	協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4
【評価】 5：非常によくできた 4：できた 3：ほぼできた 2：あまりできなかった 1：できなかった			

4 協働の効果等

(1) 協働による効果

【協働団体側】

・支会自治会、企業や各種団体から、幅広いボランティア要員に加えて、競技役員とで密接な協業関係を築き、多くの参加出場者に安全・安心な大会を運営することができた。参加者からは参考となる要請はあったものの大きな支障はなかった。
・また、ボランティア活動に参加した企業からは活動に対して賞賛の声を聞くことができた。

【青梅市側】

ジュニアロードレースの参加資格範囲拡大や家族割引の実施など、全国からより多くの参加者に申し込んでいただけるように取り組み、すべての部門において昨年度（第56回大会）を上回る参加者数となった。また、駅周辺や会場、沿道での混雑も予想されたが、協働によりスムーズな案内ができ、安全な大会を運営することができた。

(2) 今後の課題および改善事項など

【協働団体側】

・運営側のボランティア要員確保計画とボランティア応募・受け入れの調整が行き届かず、開始直前の準備作業において情報連携の不備が生じ、一部のボランティアに迷惑をかけてしまったことから、計画策定時において要員確保と役割・配置を関係者と密接な協議が必要と思われた。

【青梅市側】

○参加者の確保
全国の市民マラソンの参加者が減少傾向にあるなかで、どのようにして参加者を確保していくか。今後はSNSを用いたPR方法を検討していく。また、ジュニア世代を巻き込み、将来の参加者確保につなげる。
○ボランティア人材の確保
市職員だけでなく、地元協力企業ボランティア人数が減少傾向である。また、役割についても見直す必要がある。

5 事業の様子（写真等）



事業名 おそきっこ里山プレイパーク&青空子ども食堂



- 1 実施団体 特定非営利活動法人かぶかぶ山のようちえん
- 2 担当課 子育て応援課
- 3 実施時期 2024年12月26日・27日・1月7日・3月26日・27日
- 4 参加者 122名
- 5 実施場所 青梅富岡里山ワンダーランド（青梅市富岡1丁目152番地）
- 6 事業の目的 遊びと食の環境を地域で支えることで「この地域で育ってよかった」と思える故郷をこどもたちの心に刻み、地域への愛着を育むことを目的とする。
- 7 役割分担
 - ・団体の役割
企画および運営
 - ・担当課の役割

ア 広報活動

イ 事業を市内全域に拡大していくための助言および協力

8 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

小曾木地域の子どもたちが、地域の子どもが少なくかつ共働き世代が増えたため、学校や学童の中でしか集まって遊ぶ機会がなく、学校や学童内では、外遊び環境としては校庭しか選択肢がなく、もっと生き物や自然の豊かな地域なのに、その中でこども同士がのびのびと遊べる場がないことを地域の大人として、保護者として課題に感じていました。

今回、自然の中で遊び、食事をすることで特色ある事業を展開できました。小学生に人気だったのは「川のサバイバル」で、沢沿いを自分たちで探検しながら下っていました。保育園児たちも切り倒してある竹を自分たちで川に橋を作りたい！と自分たちで運んで仕立てて遊びを作り出していました。こどもたちの感想からも、これからの「青梅ならではのこども環境」のひとつの事業として効果があると考えます。

9 目標達成

事業の目標：

目標人数 300名

（参加者50名・ボランティア10名 計60×5日間）

アンケートで下記の項目について参加者の7割以上が5段階で3以上の回答がある ・参加者・ボランティアの満足度・また来たいと思うか

目標の達成具合：

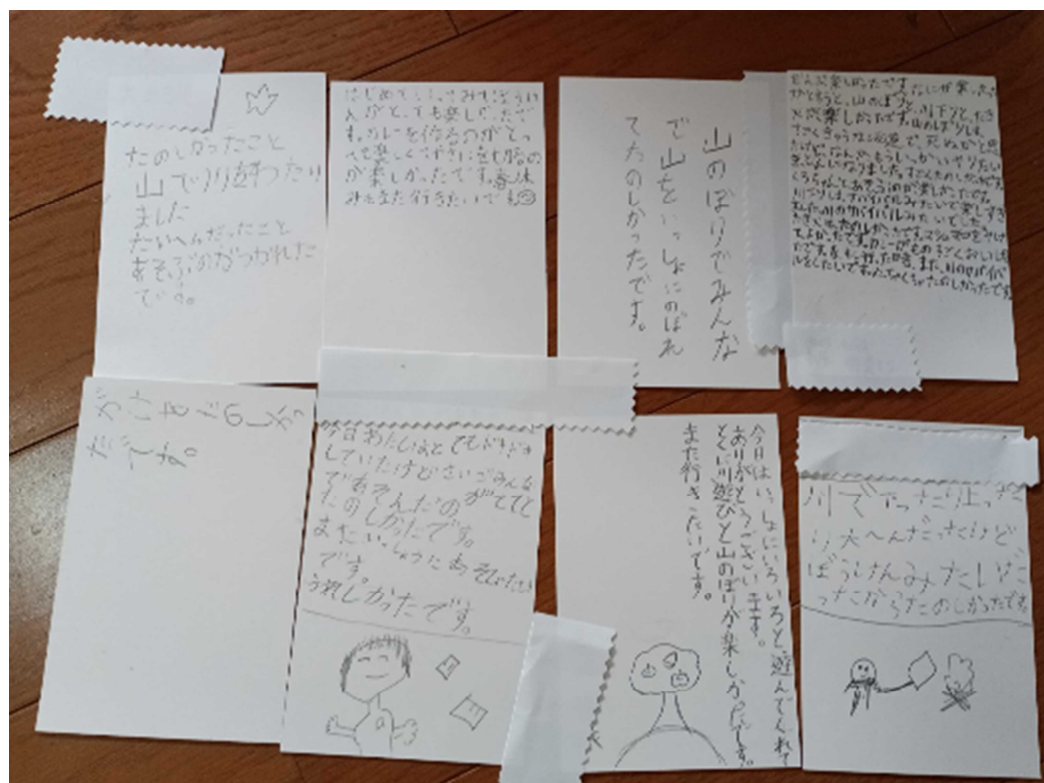
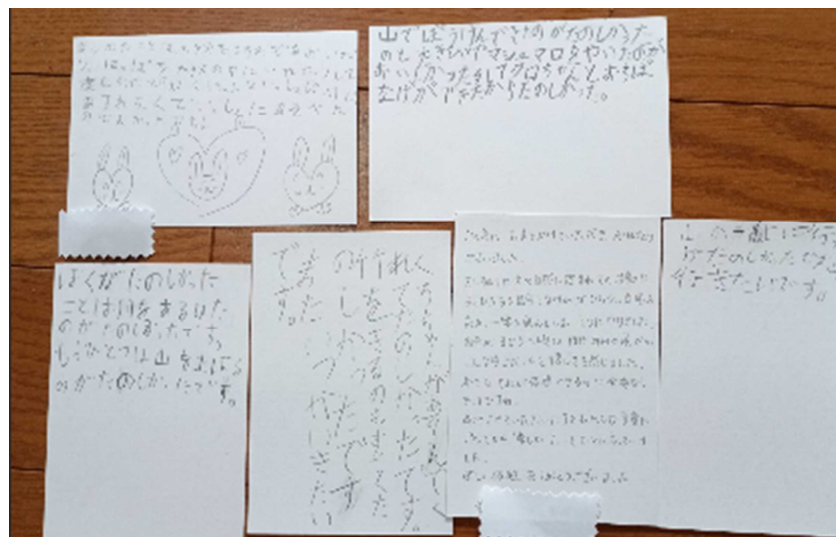
参加人数 122名 人数については未達であった

地域のこどもたちを中心に参加してもらいたく声をかけたが、冬休みは年末年始ということもあり参加者数が少なかった。春休みは小学生・幼児ともに参加があり、春休みのほうが人数が集まるということが分かった。

アンケート 参加してくれた子どもたちからは非常に好評で、下記のような回答を得られた。おそき地区に住むこどもたちがみんなで山で冒険できる機会はなかなかないので、長期休みの体験として機会提供でき

たことは子どもたちにとっても貴重な経験となったのではと感じました。

また、成木地区や、練馬区からも視察に来場がありました。里山でおこなうプレイパークは、街中で行うものと異なり、自然体験活動の一環として体験格差の解消にもなり、青梅ならではのこども環境として重要ではないかと思われます。



10 事業の実施内容

(1) 対象 青梅市内の子ども・保護者 ・ 青梅市内の地域ボランティア

(2) 事業実施日

12/26 木曜 12/27 金曜 1/7 火曜 3/26 水曜 3/27 木曜

(3) 参加費 無料

(4) プログラム

9:00 準備・打ち合わせ

10:00 開場、最寄バス停にてお迎え

10:30 ごろ 朝の会（自己紹介タイム・注意事項などの声掛け）

各コーナーあそび

12:00 お昼ご飯 山へ冒険へ

13:30 終わりの会：今日楽しかったことは、ななに？アンケート記入

最寄バス停にてお見送り

14:00 閉場、片付け、スタッフ振り返り

15:00 スタッフ解散







11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目	団体	担当課
(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	4	4
(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4

(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
(4) 協働相手は適切だった	4	4
(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
(8) 設定した目標が達成された	4	4
(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

12 まとめ（今後の課題や改善点など）

・団体側

参加人数については想定よりは未達だったが、体制や会場の様子からも、市内から広く募集するよりも、地区内の小学生や乳幼児に限定して活動するほうが良いのではと考えられました。

今回の実施で地域での認知が少しずつ広がってきたので、引き続き地域の応援を得ながら事業として継続実施していきたいと思います。運営については、こども食堂部分は市の補助金なども検討しながら継続していきたいと思います。

加えてぜひ青梅市には、「里山プレイパーク」についても市の補助等をご検討いただければと思います。今回、成木地区や、練馬区からも視察の来場がありました。里山でおこなうプレイパークは、街中で行うものとは異なり、自然体験活動の一環として体験格差の解消にもなり、青梅ならではのこども環境として重要です。市内のほかの活動団体とも連携しながら、市への働きかけを行っていったらと思っています。ぜひご検討宜しくお願い致します。

・担当課側

122名と多くの方に参加いただいたが、目標の参加者数に達しなかった。市として周知の方法や実施内容への助言については今後検討や協議を重ねていく必要がある。

自然の中で遊び、食事をすることで特色ある事業を展開できた。

今後青梅市のプレイパーク事業を検討していく上で、青梅市で行った事業の貴重な事例として、活かしていく必要がある。

13 その他

事業名 進路学習会～不登校からの進路～



- 1 実施団体 (特非) フリースペースロビンソン
- 2 担当課 教育委員会指導室
- 3 実施時期 R6年10月27日
- 4 参加者 56名
- 5 実施場所 青梅織物協同組合2階ホール
- 6 事業の目的 (1) 不登校の子どもと不登校の子を持つ親が心身ともに安心して過ごせる環境をつくること
(2) 不登校の子を持つ親たちの不安に応え、希望を育み、子どもたちの豊かな自立と成長に寄与すること
- 7 役割分担
 - ・団体の役割 企画および運営、会場の確保、広報活動
 - ・担当課の役割 会場の確保、広報活動

8 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

- ① 不登校の子の進路についての不安が多くあることがわかり、それに応えることができた。

事前申し込みに寄せられた声から、子どもが学校に行けていなかったり、休みがちであったりする保護者の心配・不安が大きいことが伺われた。これらがほんの一端であり、おそらくもっと多くの人が悩み、困っているだろうと予想される。事業終了後の参加者へのアンケートからは、「なんとかなる！」「気持ちが明るくなった」といった声が寄せられた。

- ② 学校の教員からも申し込みがあり、不登校児童生徒の増加が課題となっており、教員側も学びたいと思っていることがわかった。
- ③ 小5～中3の全家庭に学校を通してチラシを配布したことにより、これまでつながりのなかった人達の参加が多くあった。また、裏面の情報を見て不登校の子どもの居場所につながった人もいた。
- ④ 講師・体験者との丁寧な打ち合わせや内容の検討を、団体の当事者性を活かして行い、より保護者の気持ちに添った内容にすることができたと思う。また、グループ交流や個別の相談、親の会の紹介を通して、「ひとりで悩まないで」というメッセージを伝えることができた。
- ⑤ 保護者、教員（小・中・高）、支援者、議員、市民等、様々な立場の人たちが一緒に学び合えたことが親たちに安心感を与えた。同時に子どもたちの豊かな自立を支えるネットワークが広がった。また、こうした進路学習会を自分たちの地域でもやりたい、という声が広がった（羽村、瑞穂）。

9 目標達成

事業の目標：子どもたちの進路と自立についての学びを通して、不登校の意味と、どの子にも進路は開かれていることを理解し、子どもの自己決定を見守れる大人のつながりを広げる。

目標の達成具合：

- ① 講師の話から、不登校の子どもの進路について、様々な選択肢があることを理解できた。特に、定時制高校の教員の話から、定時制の様子が伝

わり、新たに選択肢に加えられた人が多かった。

アンケートより

「定時制の先生の話聞き、どういった学校生活なのか知ることができました。不登校→通信制だけではなく、他の選択もあり、少し気持ちが明るくなりました。」

「平野先生、播正先生のお話を聞いて、知識だけでなく、高校も安心して選ぶことをしているのだと、また不登校の子に寄り添ってもらえるところがある、まだまだあるのだと、安心ももらった次第です。」

- ② 中3での進路選択の意味や、子どもの自己決定を尊重するが、子どもにとっての決めることの重さや揺れる気持ちに寄り添って支えることの重要性について、理解を深めることができた。

アンケートより

「平野先生の、大人が勝手に進路をすすめてはいけないという言葉にハッとしました。私もやってしまいそうなので。子どもの決めたことを肯定してあげる。改めて大切だなと思いました。」

「子どもとの向き合い方も考えさせられました。本人のことを否定せず、肯定できる保護者でありたいです。」

「受験を目前に、今日のお話を聞けて本当によかったです。自分で決められるよう、応援しながら見守りたいです。」

- ③ 体験者の話から、いろいろな進路があってもいいことや、いつからでも何度でもやり直せること、自分で試しながら決めていくことが大切であることについて、具体的に理解することができた。

アンケートより

「進路選択はいつからでも、何度でもできる。子どもが決定できるまで待つことが大切と学びました。」

「体験者の方の声は心にひびきました。」

- ④ 様々な立場の方の参加があり、つながりが広がった。また、子どもを見守るつながりの必要性についても共通に理解ができ、グループ交流を体験した参加者からは「親の会に参加してみたい」といった声も寄せられた。

10 事業の実施内容

①元中学校教員、定時制高校教員による講演

- ②不登校の子を持つ親と、不登校経験を持つ青年の体験談
- ③グループ交流（少人数で具体的な質問や悩みなどを語り合う）

11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目	団体	担当課
(1) 事前の話合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	4	4
(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
(4) 協働相手は適切だった	4	4
(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
(8) 設定した目標が達成された	4	4
(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

12 まとめ（今後の課題や改善点など）

・団体側

学校に行くことが難しくなり、立ち止まる子どもたちにとって、進路と向き合うにあたり、「どこの学校に行くか」（外側の進路）ということだけでなく、その子の内面の葛藤を経て「どう生きるか」（内側の進路）をつかんでいくことの大切さを学ぶことを中心に据えてきたが、概ね受け入れられ、歓迎されていると感じている。同時にそれは不登校に限らず、思春期を生きるすべての子に関わる問題であるともいえ、このことを取り組み段階からどう伝えていくのかが課題になっていると感じた。

不登校で悩む親たちに届けたいと「不登校からの進路」とサブタイトルをつけたが、「不登校」という言葉がネガティブなイメージを与えるという指摘や、このタイトルにとらわれて参加者の幅が狭まったのではないかと指摘もあった。進路に対してどの子にとっても大切

な課題であることが伝わるような表現の工夫や取り組みなど、検討していきたい。

進路についての学習は、毎年必要であると思うが、今年は10月に行ったため、中3の子をもつ親の参加は少なかった。もちろん、中2以下の子にとっても必要ではあるが、時期や回数、内容について、多くの親や子が孤立せずに、学び合える仕組みとなるよう、考えていきたい。

必要な人に情報を届ける工夫として、学校を通してチラシを全家庭に配布したことは有効であったが、その印刷や配布にかかる経費の確保は今後も課題になると思われる。また、高校生の不登校も増えていることから、中学卒業後の年代の子どもたちへの情報提供を含めた支援体制の構築が必要になっていると思われる。

・担当課側

不登校傾向のある子どもをもつ保護者に向けた進路の情報提供として、市が十分に組み合わせていない現状では、本事業は効果的であったと思われる。本事業のポイントは、子育て中、進路というターニングポイントについて悩む保護者に対して、進路の具体的なイメージ等を知ってもらうことによる不安の解消および子どもの意思で進路を決定することの重要性を知ってもらうことであると捉えている。

参加者からの指摘にもあったとおり、不登校という言葉で参加者を狭めた可能性もあり、今後は子育て支援の観点からの協働として実施することも視野に入れ、効果的な方法を検討したほうがいいのではないかと考える。

13 その他

令和6年度市民提案協働事業 事業報告書

事業名 皆さんで「デフリンピックを盛り上げよう」イベント



1 実施団体

青梅市聴覚障害者協会

2 担当課

障がい者福祉課・スポーツ推進課

3 実施時期

令和6年10月20日（日）午後1時00分～4時30分

4 参加者

131名

5 実施場所

青梅市福祉センター2階 第1～3集会室

6 事業の目的

デフリンピックの知名度を20%上げる。

参加者を100名以上集める。

7 役割分担

・団体の役割

○映画「みんなのデフリンピック」の上映

○デフリンピック講演

○デフリンピックトークショー

○国際手話ミニ講座

各種準備

・担当課の役割

○市スポーツイベントにおけるデフリンピックおよび当イベントのPR

○当日の運営補助

8 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

市民への2025デフリンピックPR、聴覚障害への理解増進および手話言語の周知ができた。

9 目標達成

事業の目標：来場者数100名

健常者・ろう者を問わず、来場者同士が笑顔で触れ合える場を提供する。

目標の達成具合：来場者数131名

来場者同士で笑顔で触れ合える場を設けることができ、ろう者への理解ができた。また、「デフリンピックを盛り上げたい」と考えてくれる方が大勢いた。

10 事業の実施内容

①映画「みんなのデフリンピック」の上映

②デフリンピック講演

③デフリンピックトークショー

④国際手話ミニ講座

11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目	団体	担当課
(1) 事前の話合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	4	4
(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
(4) 協働相手は適切だった	4	4
(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
(7) 事業実施は円滑になされた	3	4
(8) 設定した目標が達成された	4	4
(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

12 まとめ（今後の課題や改善点など）

・団体側

- 想定以上の来場があり更に広い会場で実施できると尚良かった
- 後方の席で参加された来場者にとっては、スクリーンに映る文字が小さく、見えづらかった

・担当課側

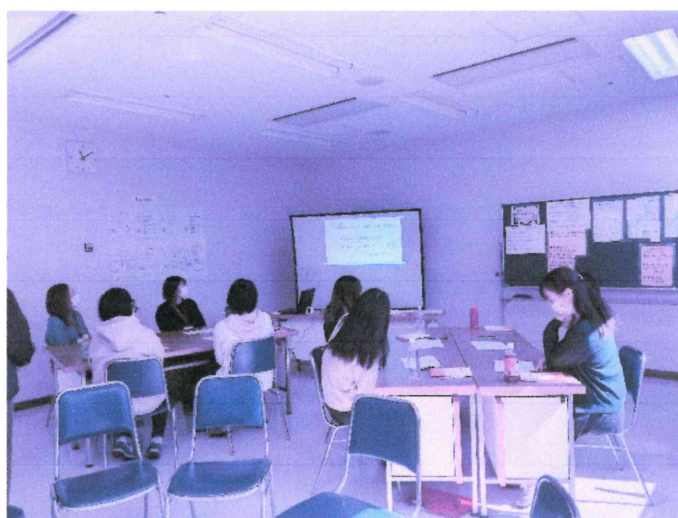
- デフリンピックおよびデフスポーツのPRをすることができたが、関係者以外の一般の方々への周知に課題が残った。
- 市主催イベントにおけるろう者への配慮を見直す機会となり、今後は手話通訳者の手配などを検討していきたい。

13 その他

- 助成金をいただけたことで、イベントのクオリティが上がり、成功につながりました
- 音響など、市職員の方々のご支援、ご協力が助けとなりました。

事業名

「親子の絆づくりプログラム“幼児とともに！”BP3」



1 実施団体

NP0 法人青梅こども未来

2 担当課

子育て応援課

3 実施時期

令和 7 年 2 月 19 日～3 月 19 日（毎週水曜日 計 5 回）

4 参加者

1 歳から未就学児の子どもを育てている母親 8 名

5 実施場所

青梅市福祉センター 集会室

6 事業の目的

親の不安の軽減・心身の安定

少し先を見通した子育て知識の提供

7 役割分担

- ・ 団体の役割
 - ・ 広報活動（広報掲載・ニュースレター・チラシ・ポスター・SNS 発信）
 - ・ 講師依頼
 - ・ 事務受付スタッフ要員
 - ・ 健康センター、子ども家庭センターへの説明
 - ・ 会場準備
- ・ 担当課の役割
 - ・ 市内保育園、幼稚園にポスター、チラシの掲示依頼
 - ・ 市内の関係各所にポスター、チラシの掲示
 - ・ 青梅市の広報掲載・SNS などの発信

8 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

「生まれながらに一人前の親はいません」「親は子育てをする中で周り

からの情報やサポートを受けながら、親は育っていくものだ」という視点から親業（parenting）を学ぶ機会を提供することが出来た。また、親としてのニーズ（自分の子どもを自分で育てたい、子どもと関わっていたい）と親自身の自己実現を図りたいという2つのニーズが両立できるように支援することの重要性を伝える機会となった。親を親として育て、親を支援する機会となった。

9 目標達成

事業の目標：

- ・1歳以上の子どもとの関わりを学ぶ
- ・子育てを共有し相談できる仲間をつくる（ピアレビュー）
- ・母親の育児不安や心の安定を図る
- ・子どもの発達を学ぶことにより焦らず完璧を求めない子育てをすることが出来る
- ・「親としてより良く生きる」という親自身の人生についても考えていく

目標の達成具合：

- ・参加者の子どもの年齢は1歳から6歳と幅が広がった。また、長子が中学生、小学生高学年の参加者もいらした。年齢幅はあったが、幼児期の子どもを育てている母親ということでは一緒である。
- ・コロナ禍で長子の関わるコミュニティでも人とのつながりがあまりない現状の方がいることが分かった。その様な中での子育て情報を共有する機会がないことも子育てでの不安そして母親の心の不安定につながることも参加者同士の話し合いの中で見出してくれた。
- ・子育てするときに指針とすべき、長年の英知が生み出した保育学や発達心理学に基づく科学的な子育て論をわかりやすく伝えた。それにより子どもの成長の道筋を理解し、今の子育てが思春期に繋がることを伝えた。

・参加した母親からのアンケートからは、

*同じ悩みを持っている方と話ができ安心してすることが多かった。

*イライラした時は少し距離をとりながら楽しく育児をしようと思いました。
参加出来てよかった。

*このタイミングで参加できてよかった。子どもとの向き合い方も少しずつ変化し、イライラすることも少し減ってきたように思う。

*目の前の子どもの成長、幸せをもっと意識したい。

*上の子との時間をつくるようにしたり子どもがどう思っているだろうか
など考えることが多くなった。 （アンケートより抜粋）

10 事業の実施内容

実施する回数は5回、毎週同じ場所で同じ時間、同じメンバーで開催する

○実施会場 青梅市福祉センター集会室

○開催日程 2025年2月19日（水）、26日（水）、
3月5日（水）、12日（水）、19日（水）

○参加者 申し込み 9名

・各回のテーマ

1回目セッション「新しい出会い」

2回目セッション「子どもとの関わり方」

3回目セッション「子どもの発達と「しつけ」」

4回目セッション「私のストレス」

5回目セッション「親として、より良く生きる」

・対象 1歳～就学前の子どもを育てている母親 20組

- ・講師 日本 BP プログラムセンター公認 BP3 ファシリテーター 2 名
- ・講座の構成 1 回 2 時間 毎回テーマにそっての話し合い、DVD やテキストを使つての基礎知識のまとめなど

前半 1 時間 40 分は構造化されたプログラム

後半 20 分は交流・質問タイム

11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目	団体	担当課
(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	4	4
(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
(4) 協働相手は適切だった	4	4
(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
(8) 設定した目標が達成された	4	4
(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

12 まとめ（今後の課題や改善点など）

- ・団体側
- ・プログラム自体は、参加者からは好評を得ることが出来た。開催時期に感染症がまん延していたことで特に子育て中の家族では、家族感染が多く

みられ欠席者が多い回もあった。また、今後の課題としては、幼児期の子どもの母親を対象とする講座では、託児が必須であることも実感した。実際に託児があれば申し込みたいとの申し入れが多くあったことも事実である。今後の課題としたい。

- ・ 担当課側

- ・ 事業の周知が課題である。広報やSNS、市内保育園、幼稚園等にチラシの配布依頼をしたが、募集人員には達しなかった。また、母親のみで参加する事業のため、託児が必要であると感じた。限られた予算の中で、充実した事業にするために、工夫が求められる。

13 その他

特になし